

令和7年度 農業・農村の多面的機能の 持続的発揮に向けた全国シンポジウム



主 催 全国土地改良事業団体連合会

農業・農村の多面的機能の持続的発揮に向けた全国シンポジウム

< 次第 >

令和7年10月21日（火） 9:30～16:30

9:30～ 9:35 開会挨拶 全国土地改良事業団体連合会専務理事 室本 隆司

9:35～10:05 基調講演
「多面活動の未来像 ～活動組織に期待すること～（仮）」
農林水産省農村振興局次長 青山 健治 氏

10:05～10:35 講演①
「未来へつなぐ TANOPPO でつなぐ活動の輪 ～多様な人材との協働で描く農村～」
水土里ネットとちぎ（栃木県農地水多面的機能保全推進協議会）植木 美穂 氏

10:35～11:05 講演②
「静岡県における農村振興の取り組み ～農村と企業・学生が手をつなぐ～」
静岡県経済産業部農地局農地保全課 赤松 麻子 氏

11:25～11:55 講演③
「しまね関係人口マッチング・交流サイト しまっち！事例紹介」
公益財団法人ふるさと島根定住財団 原 早紀子 氏

13:00～13:30 講演④
「地域ぐるみによる新たな農村づくり
～新たな地域ネットワークの形成による農村環境の創造～」
福井県鯖江市 グリーンネットさばえ 堀 克行 氏

13:30～14:00 講演⑤
「とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業
～農山漁村の保全・活性化に向けた協働活動～」
徳島県農林水産部農山漁村振興課 振興・創生担当 犬伏 要輔 氏

14:00～14:30 講演⑥
「三重のふるさと応援カンパニー推進事業 ―地域 企業の縁結び―」
三重県農林水産部農山漁村づくり課 浦田 素子 氏

14:50～15:20 講演⑦

「待矢場太田広域協定運営委員会 ～活動継続は力なり～」

待矢場両堰土地改良区 飯塚 則幸 氏

15:20～16:30 パネルディスカッション

「活動組織の体制強化に向けたマッチングの仕組みの構築に向けて」

コーディネーター

特定非営利活動法人みんなの集落研究所首席研究員 阿部 典子 氏

パネリスト

静岡県経済産業部農地局長 岩崎 康正 氏

水土里ネットとちぎ（栃木県農地水多面的機能保全推進協議会）植木 美穂 氏

三重県農林水産部農山漁村づくり課 浦田 素子 氏

農林水産省農村振興局農地資源課多面的機能支払推進室長 村瀬 勝洋 氏

目 次

講演①「未来へつなぐ TANOP0 でつなぐ活動の輪 ～多様な人材との協働で描く農村～」	1
講演②「静岡県における農村振興の取り組み ～農村と企業・学生が手をつなぐ～」	13
講演③「しまね関係人口マッチング・交流サイト しまっち！事例紹介」	27
講演④「地域ぐるみによる新たな農村づくり ～新たな地域ネットワークの形成による農村環境の創造～」	45
講演⑤「とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業 ～農山漁村の保全・活性化に向けた協働活動～」	56
講演⑥「三重のふるさと応援カンパニー推進事業 一地域 企業の縁結び一」	79
講演⑦「待矢場太田広域協定運営委員会 ～活動継続は力なり～」	92

未来へつなぐ

TANOPOでつなぐ活動の輪～多様な人材との協働で描く農村～

水土里ネットとちぎ（栃木県農地水多面的機能保全推進協議会）

目次

イントロダクション

3

栃木県の現状と課題

7

TANOPO：解決策と挑戦

9

成功事例：小さな奇跡から大きな変化へ

13

未来への展望：次世代とつなぐTANOPO

19

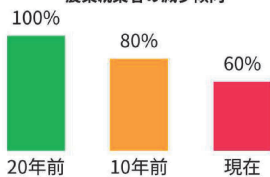
イントロダクション

農村地域では、地域農業者の高齢化と後継者不足が深刻化し、農業を継続することが難しくなり、自然環境を保全することが困難になっています。

これは、癒しとなる農村風景や動植物の生息など多面的機能を維持していく上で、解決しなくてはならない課題です。

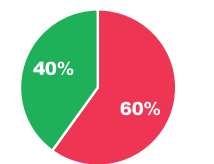
「持続可能な農業」「農村の維持活動」には、女性参画や非農家、都市住民、企業、大学など多様な人材の確保が急務であることを活動組織との座談会で共有、TANOPOを活用して多面的機能支払交付金活動への人材の確保と育成を図り、農業農村の活性化支援を目指します。

農業就業者の減少傾向



- 赤 : 農業就業者人口は過去20年間で約4割減少
- オレンジ : 65歳以上の農業就業者の割合が約6割を占める
- 緑 : 基幹的農業従事者数も10年間で約2割減少

農業就業者の年齢構成



■ 65歳以上 ■ 65歳未満



3

なぜ今、「多面的機能」か

農業・農村は、私たちが生きていくために必要な『めぐみ』をもたらしてくれます。

『めぐみ』は「多面的機能」と呼ばれ、洪水を防いだり、生き物を育んだり、美しい風景を形づくったりと様々な役割を果たしています。しかし、近年の人口減少や高齢化により、集落機能が低下し、これらの機能を維持することが難しくなっています。例えば、農業用水路に土砂や雑草が溜まると大雨の際に住宅や多くの施設に影響が発生することがあります。多面的機能の『めぐみ』を維持するには、地域全体で農地や水路の点検や手入れを続けることが重要であり、農村は、私たちの暮らしに欠かせない「多面的機能」を担っています。「多面的機能」は、国の宝物です。住んでいる場所や職業に捉われず、日本人が協力し守り続け、美しい日本を次の世代に繋ぎましょう！



人の生活を守る



人の生活を豊かにする



自然と生きる



未来に繋げる

4

「多面的機能の広報活動による理解促進」



「子どもの多面的機能に対する想い」



5

TANOPOの役割と本日のテーマ

挑戦1 オンラインの交流の促進

オンラインで行政や組織間の交流による情報の共有、意見交換が可能。

従来の「見るだけ」でなく、全国の誰もが容易に「参加できる」サイトの構築。

挑戦2 意見集約とマッチング

農村と都市住民とをつなぐオンラインプラットフォームで、研修や交流を支援し、双方のニーズに対応した効果的なマッチングの実現。

挑戦3 多面的機能の活用

オンライン研修プログラムの実施、地域イベントでのPR活動、若手農業者のネットワーキングイベントの開催。

6

栃木県の現状と課題



現状

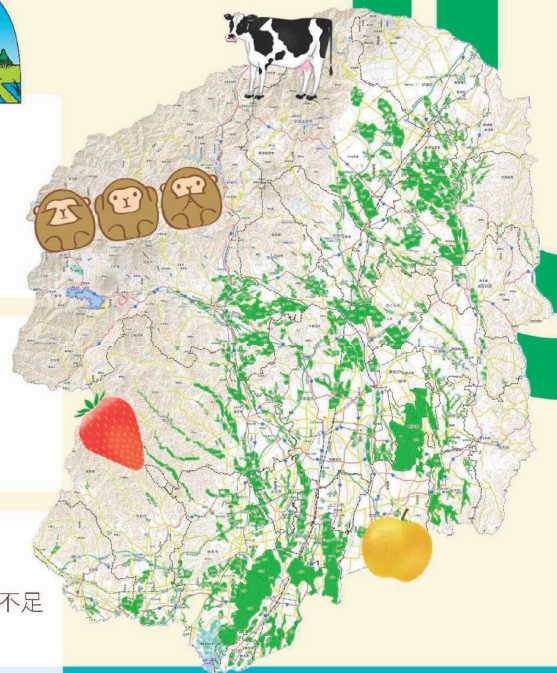
農地維持	430組織（23市町）	交付対象面積	42,408ha
資源向上	247組織（22市町）	交付対象面積	29,364ha
施設長寿命化	46組織（12市町）	交付対象面積	8,539ha

課題1 人材不足

- ・組織のリーダーのなり手不足、維持活動参加者の減少
- ・活動の担い手の高齢化

課題2 情報共有と交流

- ・地域内の話合いの機会の減少 → 地域課題解決に向けた連携・議論の不足
- ・組織間や地域間の交流不足 → 地域活性化波及効果への影響



7

多面的機能支払交付金



制度とは？

多面的機能支払交付金制度は農地や水路、農道などの地域資源の適切な保全管理を行う共同活動に対し、国や県、市町村が財政的な支援を行う仕組みです。この交付金は、地域の共同活動の継続と活性化を促し、農村の持つ多様な価値を守るための重要な原動力となっています。

多面的機能支払交付金

農地維持支払交付金

資源向上支払交付金

地域資源の質的向上を図る共同活動

施設の長寿命化のための活動

組織の広域化・体制強化

① 地域資源の基礎的な保全活動
② 地域資源の適切な保全管理のための推進活動

① 施設の軽微な補修
② 農村環境保全活動
③ 多面的機能の増進を図る活動



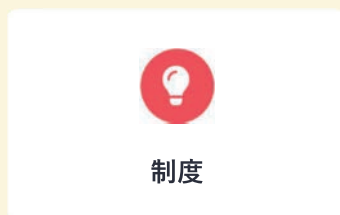
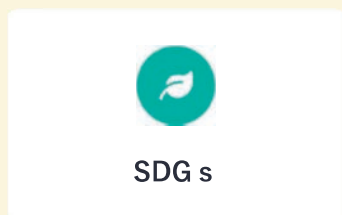
8

TANOPO：解決策と挑戦



9

TANOPOの多彩なコンテンツ



10

「つながる広場」で広がる新たな可能性



人手が足りない・・・
誰か手伝ってくれないかな



- ・人手不足で悩んでいる
- ・新しい活動の始め方がわからない

組織A



地域を多様な人材で支える
体制づくり

農村に行っ
てできることを！



- ・農村地域で活動がしたい
- ・ボランティアをしたい

都市住民



都市住民と
交流できないかな



- ・新しいことを始めたい
- ・様々な活動をしている

組織B

11

マッチングの流れ ～誰でも簡単、5ステップ～



1. 会員登録

無料で会員登録。



2. 農村からの依頼

活動組織が、草刈り、泥上げ、生き物調査など、人手が必要な活動内容を登録。



3. 参加の希望

企業、学校、大学生などのボランティアが、サイトを通じて活動内容を閲覧し、参加を希望。



4. TANOPOでマッチング

依頼がマッチしたらプライベートメールでマッチング。



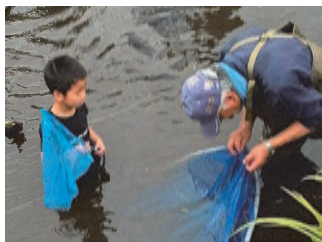
5. 共同活動の実施

マッチングが成立すると企業や学校、大学生などのボランティアが農村の保全活動に参加可能。

12

成功事例：小さな奇跡から大きな変化へ

●生きもの調査（宇都宮市）



●収穫祭（益子町）



●JRヒマワリ播種（那須烏山市）



13

成功事例一覧

●事例詳細1：水路の堀さらい



【参加者のコメント】

堀に入って泥をかき出してみると、想像以上に重労働で、すぐに汗だくに。きれいになった堀に勢いよく水が流れていくのを見たとき、自分たちも地域の一員として貢献できたような大きな達成感があった。普段、座学として学んでいることが、現場でどのように実践され、支えられているかをリアルに知ることができた。これは教室の中だけでは絶対に得られない学びだ。

●事例詳細2：コスモス畑の草刈り



【参加者のコメント】

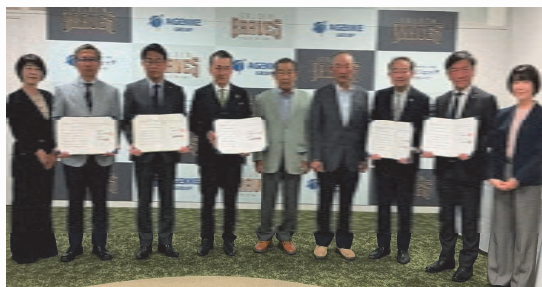
草刈りの光景は良く見ていたけど、簡単という認識が一瞬にして吹っ飛んだ。作業中の事故事例など、きちんとした知識と十分な安全対策が必要だということが講習から学べて良かった。実地では、刈払機の扱い方など丁寧に指導いただき、組織の皆さんと楽しく参加できた。安全講習があると初心者でも参加しやすい。

14

事例詳細 3：小山用水利土地改良区と企業の画期的な連携



■ 小山用水利土地改良区と地元企業との協定締結式 (2025年5月8日)



■ 地元企業との協定

小山用水利土地改良区は、地域の農村が直面する高齢化や担い手不足などの課題に対し、地元企業4者と協定を締結しました。

■ 参加企業

栃木ゴールデン
プレーブス

銅市金属工業

齊藤組

坪野谷紙業

■ 協定の内容

企業が農地や水路の草刈り、泥上げといった農地維持活動に協力することです。これにより、地域資源の適切な保全管理を維持し、農村の多面的機能の発揮を支援します。

15

Win-Winの関係づくり

小山用水利土地改良区の「農業農村保全活動連携協定」は、農村と企業の双方に大きなメリットをもたらす「Win-Win」の関係を構築します。

▲ 農村側のメリット



担い手不足解消

企業の従業員が保全活動に参加することで、高齢化による労働力不足を補い、農地維持管理が継続可能になります。



地域資源の維持

草刈りや泥上げなどの活動を通じて、洪水防止、生物多様性保全、美しい景観維持などの多面的機能が守られます。



地域コミュニティの活性化

企業との交流により、地域に新たな活力が生まれ、地域コミュニティの強化に繋がります。



■ 企業側のメリット



CSR/SDGsへの貢献

企業の社会的責任（CSR）や持続可能な開発目標（SDGs）への具体的な取組みとして企業イメージupに繋がります。



地域貢献

地域との連携を通じて、地元企業としての地域社会への貢献を明確に示し、地域との結びつきを強化します。



社員の意識向上

従業員が農村保全活動に参加することで、環境意識や地域貢献意識が高まり、チームビルディングに寄与します。



新たなビジネスチャンス

地域との連携を通じて、新たな事業機会やイノベーションの創出に繋がる可能性も秘めています。

16

連携活動の第一歩 ～安全講習会の開催～



初めての顔合わせ

2025年8月5日に銅市金属工業で協定後、初の顔合わせが行われ、参加企業と小山用永土地改良区、推進協議会関係者が一堂に会し、今後の活動の方向性を共有しました。



草刈機の安全講習

面合わせの場で、メーカーによる初心者向け「草刈機の安全講習」も実施され、参加者は刈払機の正しい使い方や安全確保のポイントを学び、実際の農地維持活動に備えました。



実行力の証

「言うだけじゃない、もう動き出している」という実行力は、この取り組みの現実味と熱意を強くアピールします。協定締結後すぐに具材を用意し、実践的な訓練を提供することで、企業の参画意欲を高めています。



次のステップ

今後、「草刈り隊」の結成や、TANOPOのマッチングサイト「つながる広場」を活用したさらなる企業の参加も予定されており、持続可能な地域づくりに向けた新たなモデルとして、その展開が期待されます。

17

多様な主体との連携がもたらす新たな可能性

【女性交流会】



【草刈り女子隊】



18

未来への展望：次世代とつなぐTANOPO

栃木県では、農村の価値を次の世代に伝え、若者の農村への関心を育むため、さまざまな育成活動が行われています。これらの取り組みを通じて、農村が「とちぎの宝」であることを理解し、その重要性を継承していくことを目指しています。



若者の農村への関心育成

- ✓ 活動組織間の座談会の定期開催
- ✓ 若者の意見を反映した活動計画の立案
- ✓ 農村への関心を高め、実践的な経験を提供



インターンシップ実習生との座談会

- ✓ 実習生と定期的に座談会を開催
- ✓ 農村の現状と課題を共有
- ✓ 若者の視点からの意見を聞き取り



環境教育と啓発

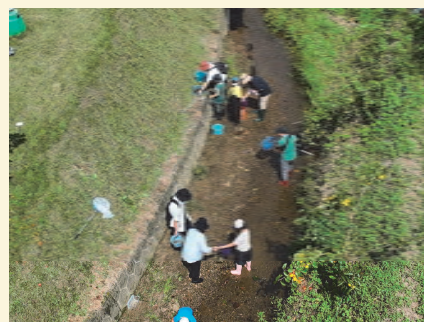
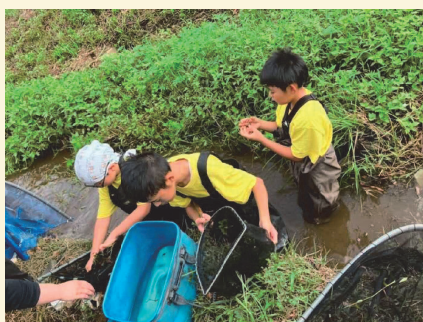
- ✓ 県内各地での生き物観察会
- ✓ 市町ロビーや道の駅での活動写真のパネル展示
- ✓ とちぎ調査隊による地域調査

💡 未来の方向性

これらの取り組みは、将来的には「草刈り隊」の結成や、TANOPOのマッチングサイト「つながる広場」を活用した更なる企業連携など、持続可能な地域づくりに向けた新たなモデルを構築することを目的としています。

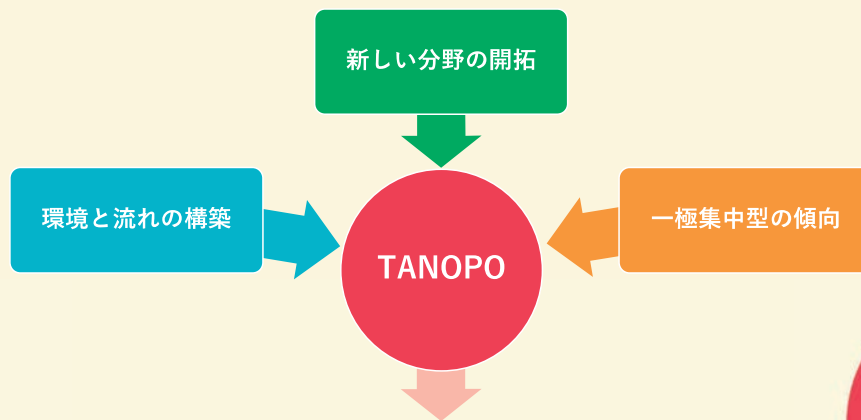
19

未来の担い手「とちぎ調査隊」五感で学ぶ



20

TANOPOの未来



TANOPOは人々を集め、解決へのエネルギーを生み出すフィールド

21

まとめ：未来へつなぐ

農村は、みんなの力で守るべき宝。

TANOPOが、人と地域をつなぐ架け橋に。企業との連携が、新しい未来を創り出す。

ポイント1

魅力的な環境の提供

ポイント2

一極集中の促進

ポイント3

問題解決の架け橋

ポイント4

コミュニティの活性化

ポイント5

多様な人材の受け入れ

22

そして、更に進化するTANOPO

TANOPO進化後の価値像

5つの新機能の実装によって、TANOPOは単なる多面的活動マッチングサイトから、栃木県の農業と地域社会をつなぐ中心的なプラットフォームへと進化します。これらの機能は、単なる情報共有に留まらず、農業の多面的な価値を最大化し、多様なステークホルダーが一体となって持続可能な地域活性化に貢献する未来を実現します。



農業体験・観光連携

農業体験イベント予約システムと
宿泊施設との連携



教育・学習コンテンツ

オンライン学習機能と「食育」情報の
発信強化



農産物ECサイトの拡充

生産者の顔が見える販売と安定収益
のモデル化



企業・ボランティア連携

ボランティア活動報告機能と
CSR企業とのマッチング強化



災害・防災ネットワーク

災害時連絡・情報共有掲示板と
スマート農業技術の活用

23

農地の維持



農村環境



人材育成（教育）



多面的機能体験



未来をつなぐ、みんなで支える
農業インフラ

TANOPOで
まるっとつながろう!!

ご静聴ありがとうございました。



静岡県の紹介

静岡県の農村振興施策について

「むらマッチ」について



静岡県の農村振興施策について



5

静岡県の農山村地域の現状・課題

農山村と現状と課題

- ・人口減少や高齢化、遊休農地増加など環境悪化
- ・地域課題の解決に外部（大学や企業）の力が必要

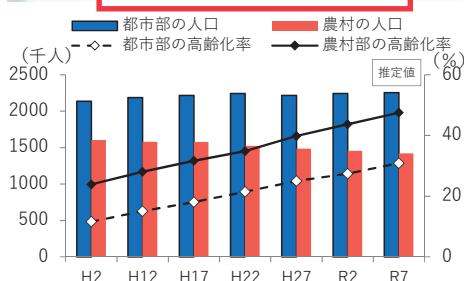
都市農村交流・ビジネスへの期待

- ・農村への交流、関係人口増加
- ・田園回帰志向による移住増
- ・外国人観光客増加、新たな農村ビジネス創出の期待

企業の社会・環境貢献の高まり

- ・企業の社会や環境貢献の必要性の高まり
- ・「田園回帰」など農村への志向増大

都市と農村の人口と高齢化



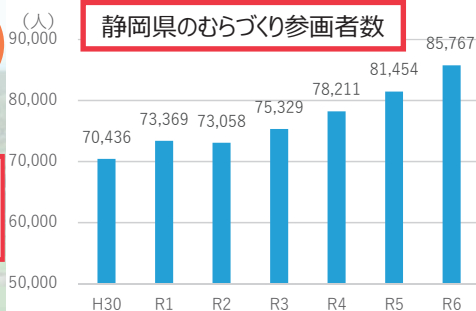
課題

人口減少と高齢化が、農山村地域（特に中山間地）を中心に進んでいます！

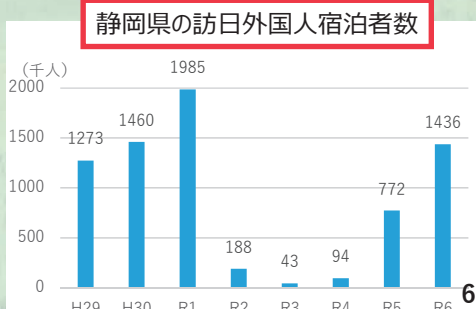
展望

農山村の豊富な地域資源を活用した地域づくり
+
外部の力（企業や他産業等）の活用

静岡県のむらづくり参画者数



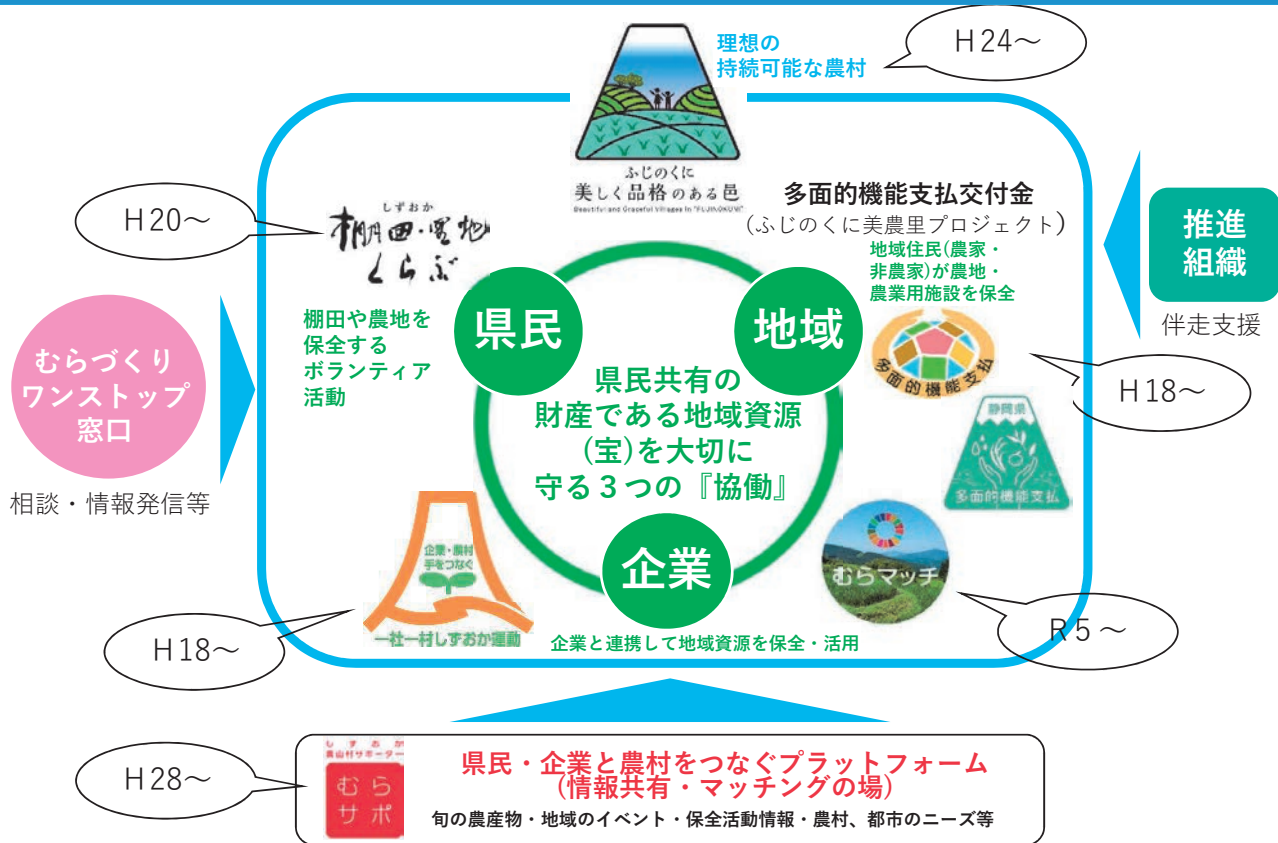
静岡県の訪日外国人宿泊者数



静岡県の地域別高齢化



静岡県の農村振興の相関図



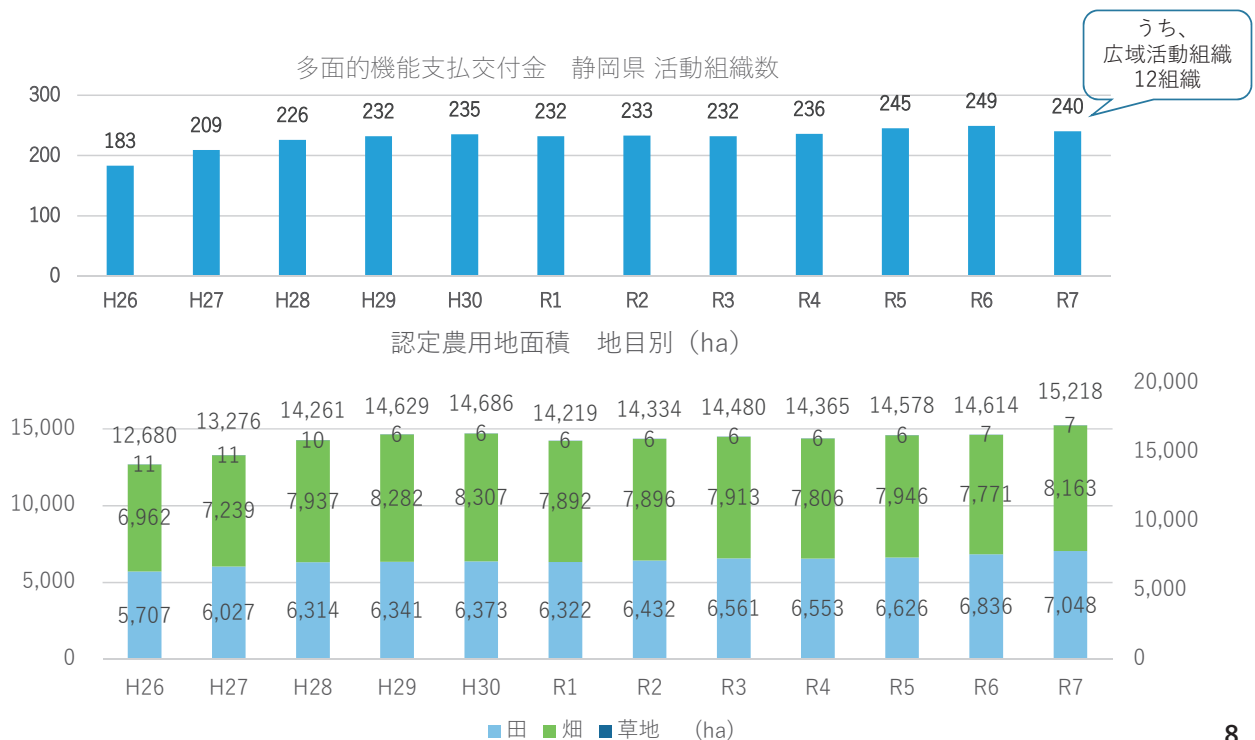
7

静岡県の多面的機能支払交付金

愛称：「ふじのくに美農里プロジェクト」（H20に一般公募により決定）

県内29市町／35市町で実施

主要作物：米、茶、みかん



8

静岡県の多面的機能支払交付金

推進組織

「静岡県多面的機能支払推進地域協議会」

設置年月日：平成19年4月5日
(旧：静岡県農地・水・環境保全向上対策地域協議会)

- ◆ 会長：大井川土地改良区理事長
- ◆ 会員：34市町、県土連、JA中央会、7改良区、県
- ◆ 事務局：静岡県農地保全課
- ◆ 事業内容：総会の開催、パンフレットなどの作成、GIS情報の整備、伴走支援体制づくり、活動組織と地域外の団体とのマッチング、協議会だより

【ロゴの改訂】
キーワード：支える、一芯二葉、稲穂、
みかん、水、ホタル、富士山



9

ふじのくに美しく品格のある邑づくり



「内発的な維持・発展を目指す農山村地域」を
手上げ方式で登録
※登録数155邑



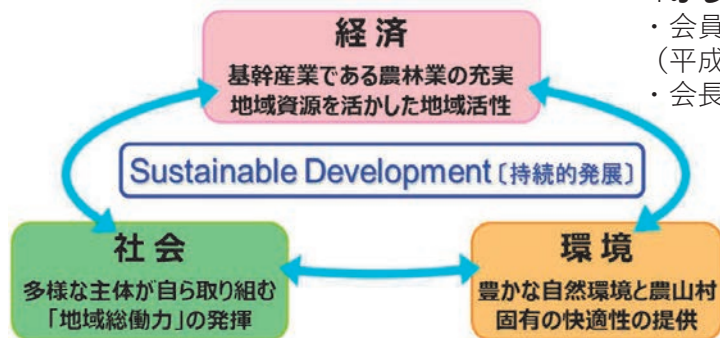
10

ふじのくに美しく品格のある邑づくり

推進組織

「ふじのくに美しく品格のある邑づくり連合」

- ・ 会員：県内35市町と県
(平成24年2月23日設立)
- ・ 会長：富士宮市長、副会長：松崎町長



邑(むら)の特徴的な取組やそこで活動する人々をクローズアップした紹介誌



知事顕彰

- ①目的：顕彰により邑のブランド化を図る。
- ②内容：邑の審査、邑づくりへの指導・助言
- ③広報：登録した邑について、全国に情報発信
- ④選定：推薦された候補邑を基本に、推進委員会が現地調査及び書類審査、意見具申。
県知事が意見具申された邑から、知事顕彰邑を決定。

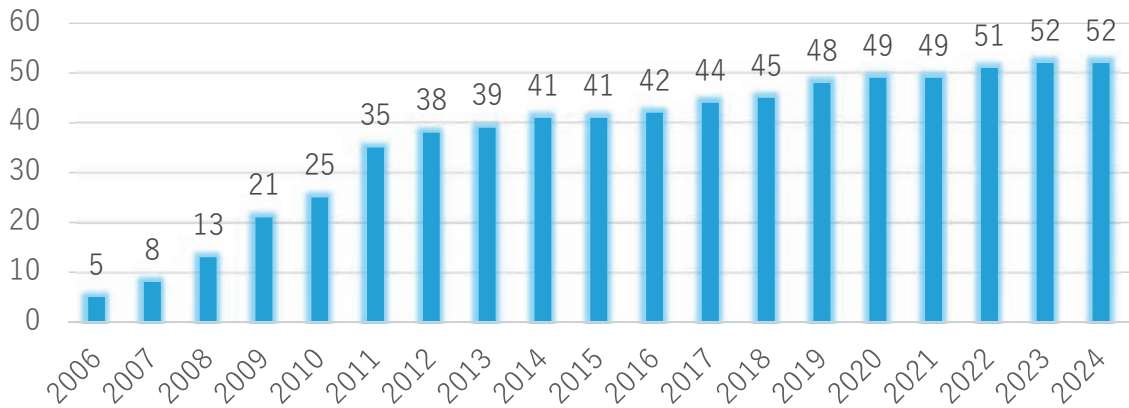
※顕彰邑：48邑 (R7.10現在)

一社一村しずおか運動



一社一村しずおか運動認定の推移

一社一村しずおか運動 認定件数



2006年～2024（19年間）で40の農山村地域と56の企業・団体により、52件の認定がなされた。

13

一社一村しずおか運動の認定

認定要件

- ・ 農村と企業がそれぞれの資源、人材、ネットワーク等を生かし、双方にメリットのある協働を目指すものであること
- ・ 地域活性化に向けた活動であること
- ・ 活動が継続して行われる見込みがあること（3年間以上）

認定事例

農山村・資源保全 ×企業・社会貢献（CSR）	農山村・地域の課題解決 ×企業・教育活動	農山村・地域資源の活用 ×企業・ビジネス活動
【農村側】 水見色（静岡市葵区）、都田地区（浜松市浜名区）、浮島地区（沼津市） 【企業・団体側】 NEXCO中日本高速道路(株) 【取組】 茶や芋の収穫・管理、遊休農地の解消、鳥獣害防止対策等 	【農村側】 大代地区（静岡市葵区） 【企業・団体側】 静岡大学農学部 【取組】 学生による課題研究、住民と協働による課題の解決 	【農村側】 水窪地区（浜松市天竜区） 【企業・団体側】 (有)春華堂 【取組】 在来作物（雑穀）の栽培、商品開発、販売 

14

しずおか農山村サポーター「むらサポ」

むらサポ

しずおか農山村サポーター

English

Japanese

お問い合わせ

サイトマップ

検索

トップページ

西部地域

中部地域

東部地域

伊豆地域

活動報告

しずおか農山村サポーター登録

メルマガ

農山村からしずおかを元気に！

魅力ある「邑（むら）」とつながるサイト。

菊川市（千板の棚田）

むらたび夏2022 / @momo_01212さん

静岡市葵区足久保（奥屋島のだんだん茶畑）

むらたび春2023 / @otriky321さん

相談フォーム

イベント情報

お知らせ

2025年2月17日

「株式会社中村組」様のご登録・応援メッセージをいただきました

2025年2月17日

「株式会社グロージオ」様のご登録・応援メッセージをいただきました

2024年11月13日

「株式会社 佐々木組」様のご登録・応援メッセージをいただきました

むらサポ

むらサポとは？

むらマッチ

農村企業 マッチング

しずおか棚田・里地くらぶ

ふじのくに美しく 品格のある邑

活動報告

応援メッセージ

事例紹介

15

むらづくりサポートの体制



農山村の課題解決や
地域づくりの支援

農山村

福祉
事業所

NPO
法人

大学
高校

企業

社会貢献・体験活動

商品開発・加工品販売

農家民宿の共同開設・経営



伊豆地域	特定非営利活動法人 NPO サブライズ 伊豆市修善寺75 ドットツリーオフィス ☎ 0558-99-9120（平日のみ9時から16時）
東部地域	特定非営利活動法人ホールアース自然学校 富士宮市下柳野165 ☎ 0544-66-0790（9時から17時）
中部地域	一般社団法人 SACLABO 藤枝市若王子705-2 ☎ 070-5332-3955（9時から18時）
西部地域	特定非営利活動法人地域づくりサポートネット 浜松市中区常盤町133-13 ☎ 053-458-3480（9時から17時）

県内4カ所に配置
地域づくりを実践するNPOに委託

16

「むらマッチ」について



17

新たな取組「むらマッチ」の紹介



協働活動は静岡県ホームページ、
「むらサポ」、広報誌などでPR!



季刊誌 **むらのおと**

むらのおとは、邑に登録された地域の資源
や活動を紹介する冊子。(年4回発行)

【配布場所】
参加企業への送付、静岡県
県内の図書館、道の駅、
銀行、市役所等に配架
こちらからバックナンバーが
ご覧いただけます▶



**むら
サポ**

**しずおか
農山村サポーター**



来て! 食べて! 見て! 魅力いっぱいの農山村を応援しよう
「静岡県の農山村をみんなで守り、盛り上げていこう」というサポーターズクラブです。

農村 × 企業・大学 
「むらマッチ」

ニーズと得意分野をマッチング。

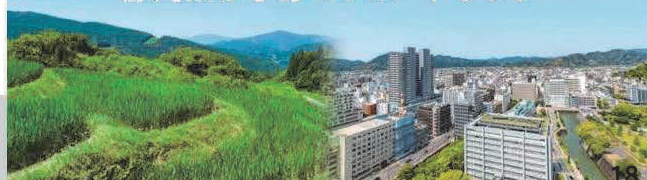
たくさんの事例も紹介!



人材育成や地域貢献、新商品開発等に向けて、魅力的な地域資源をもつ農村地域を紹介

農村と企業・大学の協働活動による新たな取組を

静岡県が手厚くサポートします



さらなる連携の促進

農村地域のますますの高齢化、活力低下へ、外部からの支援はまったなし。
食料農業基本法改正に伴う多面的機能支払の活動組織への支援の方向性

アンケートの実施（R4～R5） 協働活動に何を求めるか

企業等

約1.7割が連携に興味あり

- ・ 地域貢献・社会貢献したい
- ・ 社員のモチベーションの向上
- ・ 新たな事業展開の可能性

農山村

約2割が興味あり

- ・ 一緒に保全活動
- ・ 遊休農地対策
- ・ 地域の活性化

連携に対するニーズあり！

お互いを知ってもらうきっかけづくりが必要

待っているだけでは新たな連携は増えないのでは？

マッチングの取組強化が必要

農村と企業等のマッチング支援サイトの構築と中間支援の強化

19

「むらマッチ」とは？

連携のきっかけづくり＝マッチングサイト、中間支援

企業等



農山村

協働活動開始

県知事認定→ブランド力のUP



20

「マッチングサイト」

令和5年4月3日(月)に公開

【情報発信】
マッチングに関する情報

【新着情報】
企業連携、SDGs イベント等の情報をGet!

【活動レポート】
マッチングによる取組を紹介・蓄積



21

「マッチングサイト」の検索機能



22

「マッチングサイト」によるマッチング



「マッチングサイト」をサポートする中間支援

企業等

- ・ メリットは？
- ・ 何をどのくらいやればよい？
- ・ どうやって声をかける？
- ・ 受け入れてもらえるか
- ・ 交通手段は？

HPではわからないそれぞれの疑問・不安

農山村

- ・ 手伝ってもらいたいけど、農村側の負担は？
- ・ 継続してもらえる？
- ・ 地域が受け入れられるか？

仲介役
(県)

R6～中間支援を業務委託＝民間事業者

両者の要望をすり合わせ、最適な協働活動を提案

初回打合せへの同席、連携の試行イベントの企画

継続的な協働活動

(一社一村しずおか運動として認定)

連携事例



【環境保全】
草刈り
水路掃除



【モノづくり】
ビオトープづくり
水車の復活



【農業・自然体験】
田植え、稲刈り
生き物調査

【ブランディング】
商品開発
地域情報誌やHP作成



【イベント補助】
お祭りの手伝い
邑マルシェ



25

連携した感想

企業等

- 会社のCSRの方針に合致する。
- 他社との差別化になる。(河川、道路の清掃活動は一般的)
- 社員同士のコミュニケーションのきっかけになる。
- 離職率が下がる。
- 農産物や農家ならではの加工品がもらえることがある。
- 家族ぐるみで参加できる。
- 農村地域のきれいな原風景を楽しめる。

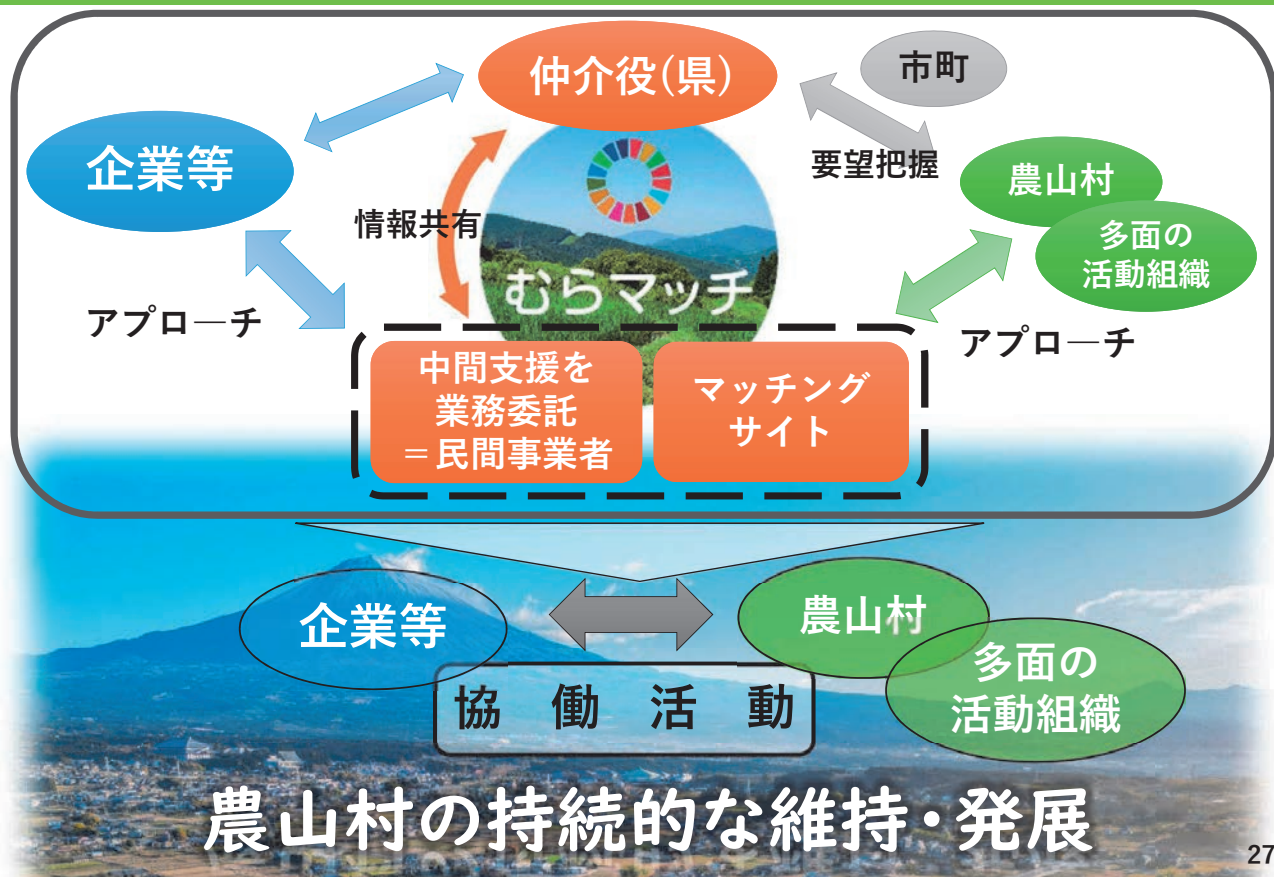
農山村

- 草刈り、水路の泥上げなど、参加者が少なくなる中、手伝ってもらって助かる。
- 農業体験のイベントも、参加者としてだけでなく、開催運営補助も手伝ってもらえる。
- 集落外の人たちに、地元の良さを知ってもらえる。
- 企業や大学のHPやSNSで地域を紹介してもらえる。
- 農村にはないアイデアがもらえる。

※アンケート結果ではなく、直接聞き取った内容です。

26

「むらマッチ」今後の展開



27

終わりに

むらサポ会員登録をお願いします。

しすおか
農山村サポーター



第11回 静岡県
農村の魅力
フォトコンテスト

作品大募集

応募方法

1 メール
デジタルカメラ等で撮影した
デジタルデータ (JPEG) を送信

2 Instagram
①「むらサポ」アカウント
をフォロー
②ハッシュタグをつけて投稿
#しすおかむらたび2025

特選 1点
準特選 2点
最優秀賞 1点
優秀賞 2点
入選 60点 (15点/回)

審査委員長
沼田 早苗 氏

テーマは本誌期間(季節)で変化!
「むらサポ」ホームページで発表します。

応募期間 2025 R7年度
年4回開催

5.1 春
6.30 夏
7.1 夏
9.30 秋
10.1 秋
12.15 冬
12.16 冬
2026 2.15 春

28

しまね関係人口マッチング・交流サイト

しまっち！ 事例紹介

令和7年10月21日（火）

農業・農村の多面的機能の持続的発揮に向けた全国シンポジウム

（公財）ふるさと島根定住財団

本日お話すること



01 島根県の状況 ～関係人口に取り組む理由

02 「しまっち！」のしくみ

03 農村での活用事例

case1 草刈りマッチング

case2 コウノトリの来る里守り

case3 作物栽培環境の整備・復活

04 おわりに



公益財団法人ふるさと島根定住財団

- ☑若者を中心とした県内就職支援
- ☑Uターンの促進
- ☑活力と魅力ある地域づくりの促進 **関係人口事業**

島根県の状況

～関係人口に取り組む理由

01

01

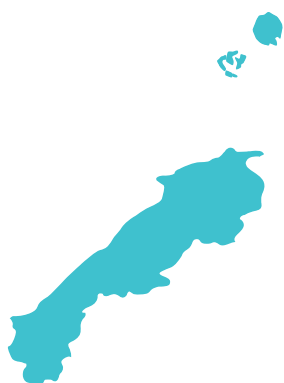
島根県ってこんなところ



#全19市町村
#出雲・石見・隠岐の3エリア
#県庁所在地→松江市

01

島根県でもやはり・・・



人口

634,156人

※R7年8月1日現在

641,396人

※R6年10月1日現在

▶約1年で **7,240人減**

高齢化率

35.0%

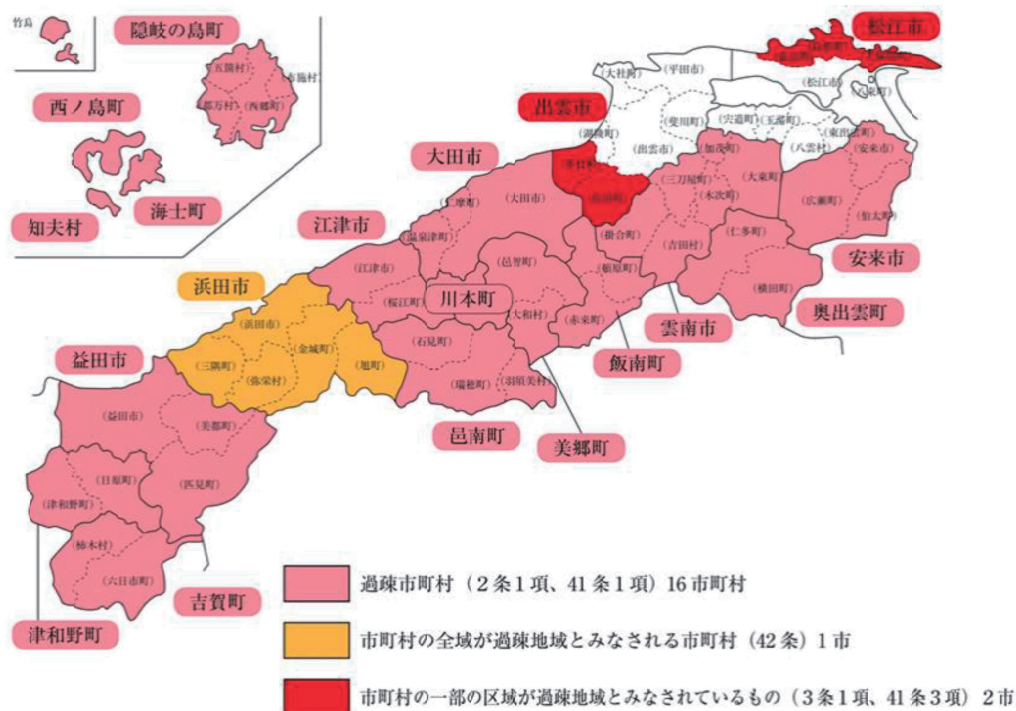
※R5年10月1日現在

出生数

3,856人

※R6年の1年間

人口減少ペースも上がっている。人口減により地域の担い手不足は加速…



01

担い手不足に対して



メンバー
の偏り

身体的・心理的
負担増

活動の
マンネリ化

活動・取組みの
衰退

人的資源の投入

新たな
仲間

活動・取組みの
維持継続

新たな主体

活動・団体運営
負担軽減

活動の
魅力化

新たな活動

地域の維持・継続・発展
暮らし続けられる地域へ！

01

担い手不足に対して

メンバー
の偏り

身体的・心理的
負担増

活動の
マンネリ化

活動・取組みの
衰退

人的資源の投入



しまっち!

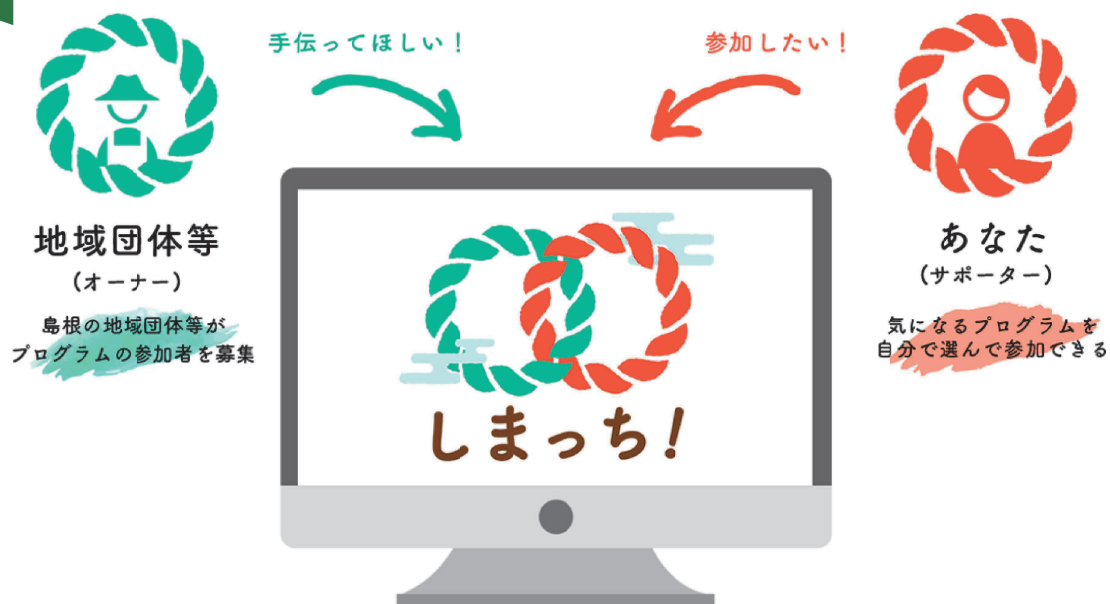
しまね関係人口マッチング・交流サイト

しまっち!のしくみ

02

02

しまね関係人口マッチング・交流サイト（R3.10～）

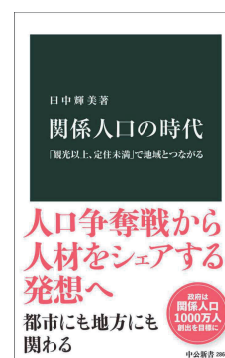
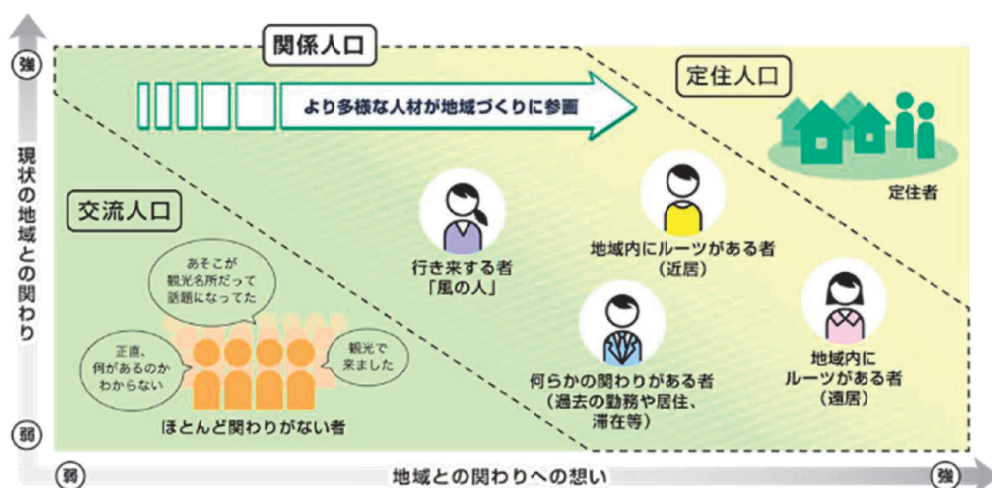


02

しまっち！のしくみ



- ・関係人口＝「交流人口」以上「定住人口」未満
- ・都市部にいながら地域や地域の人々と多様に関わりたいと希望する人々



田中輝美 著
おすすめです！

02

どんなホームページ？

普段の地域活動で
「役割」を明確にし
やりたい人を募集！



【雲南市】手作業での稲刈り&はで干しのお手伝い募集！



毎週水曜日！
工芸でつながる夕暮れマルシェ
「水宵日」運営サポーター大募集！！！！

in 松江

02

これまでに掲載されてきた活動

- ・草刈り
- ・収穫手伝い
- ・伝統行事
- ・空き家片付け
- ・リノベーション
- ・催し物運営



など これまでに **411** 件

2025年7月31日現在



サポーター数

1,925人

平均年齢43歳

県内・県外比率



※サポーターとは、島根の地域活動に関心のある関係人口。
「しまっち！」に会員登録をしている個人のこと。

2025年7月31日現在

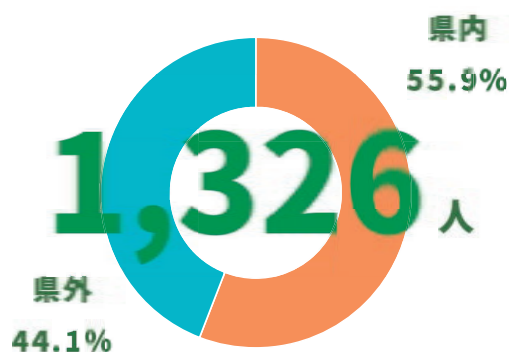
掲載プログラム数と
マッチング件数

309

75.1%

411件

申込者数(延べ)



※マッチングとは、1つのプログラム(募集情報)に対して、
1名以上から参加申込があった件数のこと。

2025年7月31日現在



月間

約 **35,000** PV

メルマガ配信希望

1,240 人64.4
%

※掲載プログラムをSNS広告で配信

※毎週金曜日にメルマガを自動配信

2025年7月31日現在

しまっち！活用事例

ー農村での活用

03

03

しまっち！活用事例 ー農村での活用



Case1

草刈り応援隊！



Case2

コウノトリの来る 里守り



Case3

作物栽培環境の 整備・復活



03

Case1

草刈り応援隊！

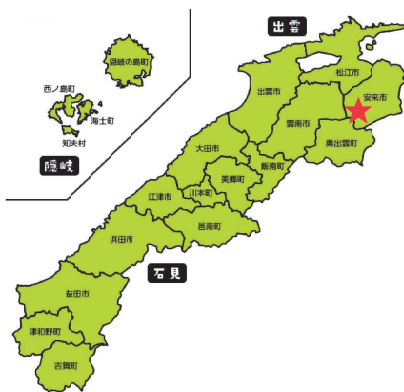


やすぎ ひだ

安来市比田地区

- ・ 388世帯・860人の地域
- ・ 高齢化率56.5%
- ・ 20年で人口半減

→地域継続への危機感から立ち上がった
住民組織を中心に、住民、移住者、
公的機関等が一体となって地域づくりに
取り組んでいる



03

Case1

草刈り応援隊！



「やらざるを得ない」草刈り作業→手を借りたい！



1回目：0人

2回目：3人

3回目：6人

隣接市から2人
遠方市から2人
県外から2人

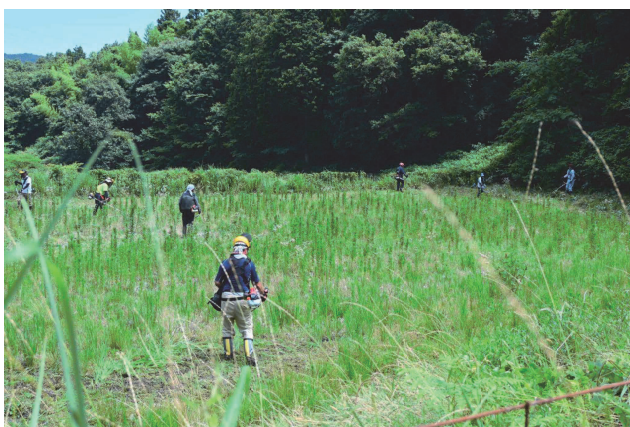
サポーターの役割

・草刈り

03

Case1

草刈り応援隊！



03

Case1 草刈り応援隊！



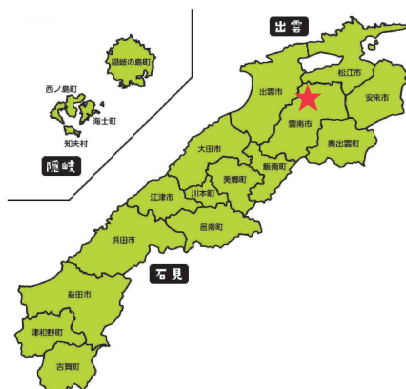
- ☑住民が「先生」に
 - **教える楽しさ**で住民が光る
 - 未経験者でも**安全に**草刈りできた
- ☑「みんなでやると早いし**楽しい！**」
- ☑経験によりハードルが下がる
 - （お互いに）**またやってみよう！**
 - **リピーター**が生まれている
 - 「またいつでも手伝うので声かけてください！」

03

Case2 コウノトリの来る里守り



うんなん はるえ 雲南市春殖地区



- ・ 人口約2,000人
- ・ 高齢化率40.5%
- ・ 地域面積の2/3が山林

→雲南市はコウノトリが飛来するまち。
「先人たちが育んだまちを、風景を、
コウノトリが選んでくれた」

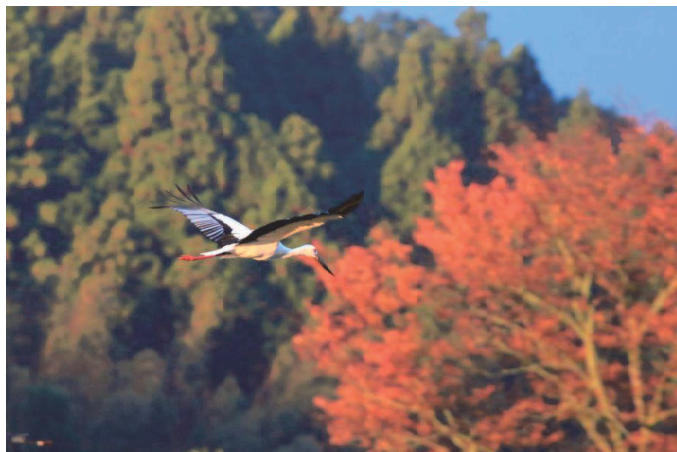
03

Case2

コウノトリの来る里守り



「選ばれたまち」 餌場づくり、環境整備→手を借りたい！



1回目：0人
2回目：2人
3回目：1人
4回目：4人
5回目：0人
6回目：3人

県内外6人が
のべ10回参加。
5回参加する
リピーターも！

サポーターの役割

餌場整備のための
・雑草取り ・草刈り

03

Case2

コウノトリの来る里守り



03

Case2 コウノトリの来る里守り



- ☑ 孫世代が活動に加わった
→ 団体メンバーのやる気UP
- ☑ 「草刈り機、持って行きます！」
- ☑ 地元での認知度UP
→ 更なる助っ人登場◎
→ これまで関わりのなかった
市内住民も活動に参画
- ☑ 某番組の取材も
→ 更なる認知度UP・活動参画に期待！

03

Case3 作物栽培環境の整備・復活



ますだ ひきみかみ 益田市匹見上地区



- 人口535人
- 高齢化率64.5%
- 標高365m。中国山地に位置
- 「匹見わさび」が古くから栽培されてきた地域。山の斜面にわさび田があるため、生産者の高齢化が生産力を直撃。放棄地が増えている

03

Case3

作物栽培環境の整備・復活



荒れてしまったわさび田を復活したい→手を借りたい！



- ・サポーター8人
近隣県からの大学生
同市内の40代
県内の30代～50代

サポーターの役割

- ・斜面の枝・葉そうじ
- ・苔落とし
- ・岩・石の整理
- ・苗植え

03

Case3

作物栽培環境の整備・復活



03

Case3

作物栽培環境の整備・復活



03

Case3

作物栽培環境の整備・復活



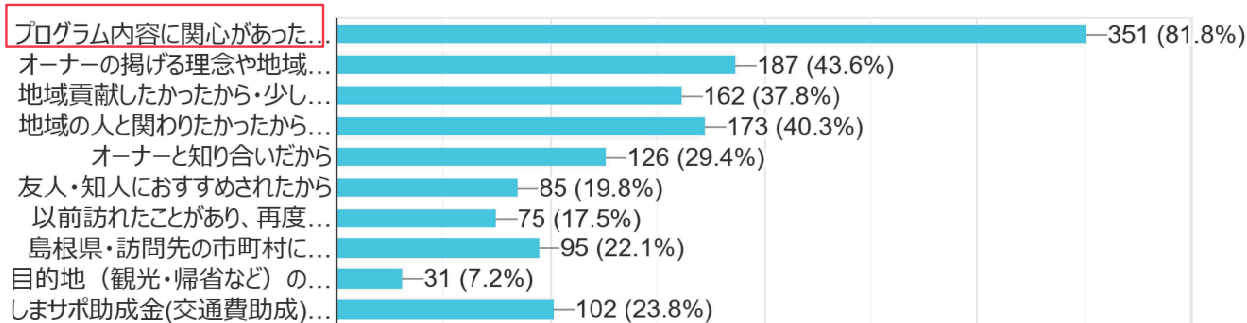
- ☑地域に移住したIターン者が
地域課題に取り組んだ
- ☑「微力ながらを**伝統を繋ぐ**一助と
なれたことがうれしい」
- ☑わさびの名所としての**復活に
ひと筋の光明**
→今後もチャレンジを続けたい！

04

おわりに：サポーターの気持ち

今回、このプログラムに参加しようと思った理由は何ですか？（複数回答可）

429 件の回答



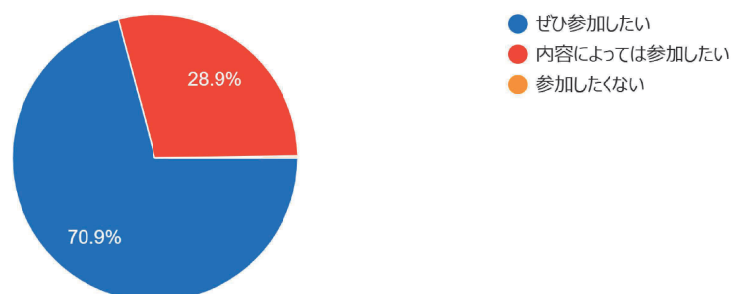
普段の地域の活動を「おもしろそう」と感じてくれる

04

おわりに：サポーターの気持ち

今回の団体（オーナー）から、プログラム募集がありましたら、また参加したいですか。

429 件の回答



「ぜひまた一緒にやりたい！」

関係人口
づくり

地域
づくり

ご清聴ありがとうございました



関係人口 受入事例集

数冊持参していますので
お声がけください！

鯖江市景観百選に指定された田園風景を次代へ！

地域ぐるみによる新たな農村づくり ～ 新たな地域ネットワークの形成による農村環境の創造 ～

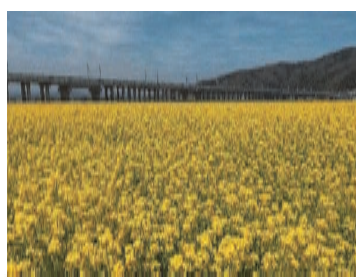


福井県鯖江市 グリーンネットさばえ

地域の概要

Page 1

- 本組織は、鯖江市東部に位置し、地区内を日野川・浅水川・鞍谷川・河和田川・穴田川が流れる緑豊かな田園地帯である。認定区域内には5小学校区、6土地改良区、33集落と広範囲にわたっている。昔から稲作を中心とした農業が主産業です。
- 近年、転作作物として取組んできた六条大麦や大豆、そば、さばえ菜花等の栽培が定着四季折々に水田を彩っています。
- また、地域内には、国道8号線、JR北陸線、北陸自動車道及び北陸新幹線などの交通網が走り、鯖江市の交通の要所となっています。半面、これらにより農地の減少、営農環境の変化、農村環境保全など、多くの課題に直面しています。



咲き誇るさばえ菜花



広域活動組織
グリーンネットさばえ

満開のコスモス



グリーンネットさばえ



私たちの組織は33集落が参加する広域活動組織です！

組織名 グリーンネットさばえ

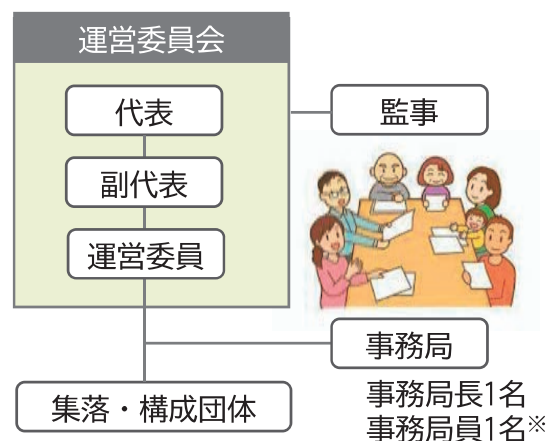
組織体制

構成員	構成員	約2,299 名
	農業者	約250 名
	土地改良区	6 組織
	構成団体数	83 団体

TOPIX 5年程前から**人口が増加**！
近隣の市町から約60名が移住

営農の状況	営農法人	4 組織	約 350 ha
	集落営農	9 組織	約 170 ha
	認定農業者	10 名	約 130 ha

地域ブランド「**なばな米**」も生産しています！



※事務業務は外部へ委託
(委託先) エコネットさばえ
●独自で作成した
事務処理システムを使用

グリーンネットさばえ

活動対象範囲

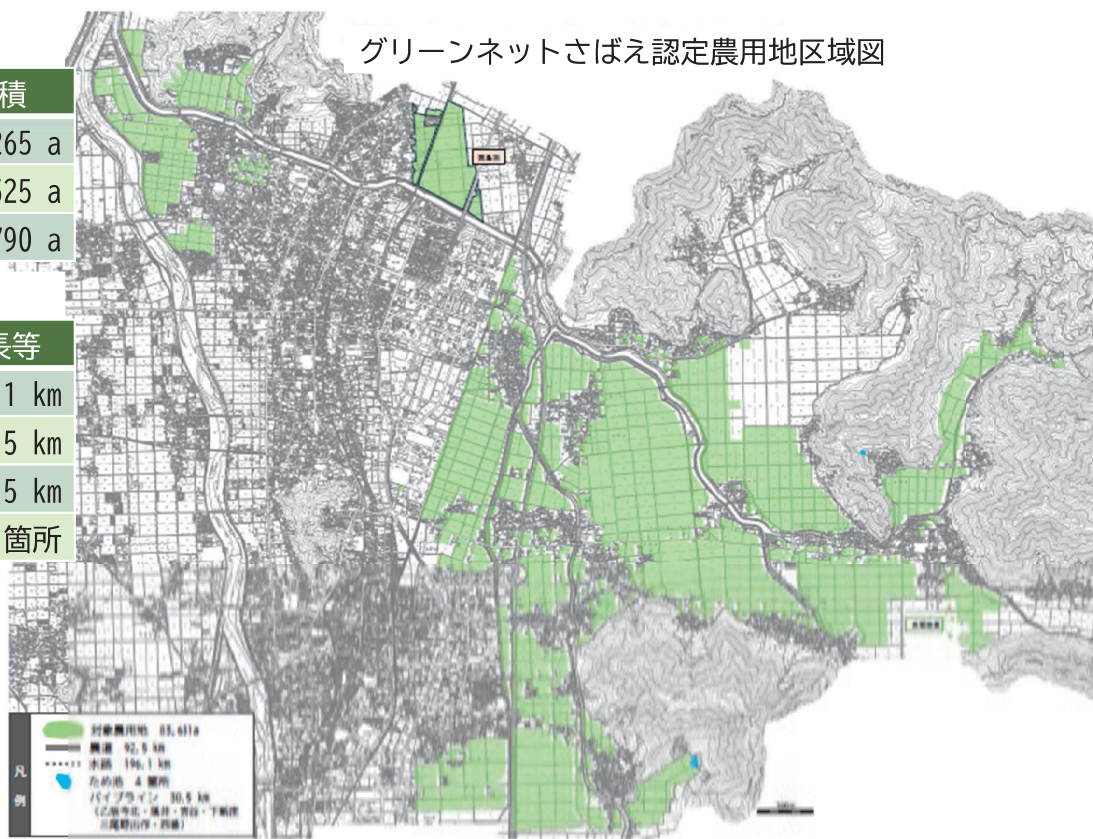
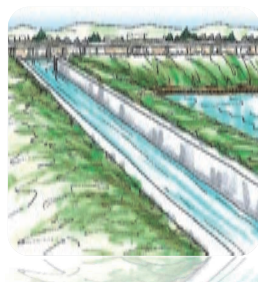
認定農用地面積

地目	農用地面積
田	81,265 a
畑	1,525 a
計	82,790 a

対象施設

対象施設	延長等
開水路	196.1 km
パイプライン	30.5 km
農道	92.5 km
ため池	4 箇所

グリーンネットさばえ認定農用地区域図



グリーンネットさばえ

👉 私たちの活動組織の**規模拡大**の変遷です！

H19

年度

水・土・里ネット中野 **誕生**

参加集落 8 土地改良区 1

鯖江東部土地改良区管内で**活動開始**！

H27

年度

水・土・里ネット東陽 **設立**

参加集落 15 土地改良区 1

近隣7集落を受入れ
広域活動組織を設立！

H29年度

参加集落 21 土地改良区 4

参加集落拡大
3土地改良区参加(鯖江河端・鯖江新横江・鯖江下新庄)

H30年度

参加集落 28 土地改良区 5

参加集落拡大
1土地改良区参加(立待吉江)

R01

年度

グリーンネットさばえ **名称変更**

参加集落 32 土地改良区 5

参加集落拡大



R07年度

参加集落 33 土地改良区 6

参加集落拡大
1土地改良区参加(鯖江鳥羽)

グリーンネットさばえ

活動組織を広域化したキッカケ

👉 活動組織の広域化を考えたのはH19年度の制度創設時。

H18

年度

平成19年度から農地・水・環境保全向上対策が始まる・・・。

提案 当時の理事長

土地改良区管内で1組織化



理事会

集落の意向は、参加しない、事業
に取組まないとバラツキがあり
土地改良区単位の組織化を**断念**

H19

年度

8集落1組織の「水・土・里ネット中野」とし活動を開始

昔からの**慣習と繋がり**で、水路・農道の保全管理や祭等を
共同で実施してきた経緯もあり幾度の話し合いを経て組織を発足。
年を追うごとに色々な活動を展開！**地域になくてはならない存在**に成長！

H25～26年

要請活動継続の断念を検討中の活動組織と市の担当者
(事務処理が煩雑・役員のなり手がいない等)

H27

年度

7集落を受入れ
広域活動組織「水・土・里ネット東陽」を設立！新規受入れの際に、それぞれ独自のやり方で実施してきた特性を生かしつつ
より良い組織づくりのため運営委員会等での**話し合い**を続けている。

グリーンネットさばえ



活動の実施を集落と組織全体に役割を分担！

集落

広域活動組織全体

農地維持支払



- ①施設の点検・年間計画の作成
- ②農用地・水路・農道等の草刈
(集落まわり)
- ③水路の泥上げ等

広域的農道や幹線水路等

草刈隊

- ④研修(事務・組織運営 機械の安全使用)
- ⑤地域資源の適切な保安全管理のための推進活動

資源向上支払(共同活動)



- ⑥施設の機能診断・年間計画の作成
- ⑦診断結果に基づく軽微な補修
- ⑧農村環境保全活動
(景観形成・外来種の駆除)

教育機関等と連携

生きもの調査 農業体験

- ⑨研修(機能診断・補修技術等)

広域活動組織事務局



- 運営委員会等の開催事務
- 報告書類作成
- 金銭出納
- 関係機関等の連絡・調整等

資源向上支払(長寿命化)



- ⑩集落要望を取り纏め
実施計画書を作成・実施

直営施工班 (必要に応じ施工)

グリーンネットさばえ

事例① 施設の長寿命化の計画～実施までの流れ



長寿命化の計画～実施の流れ！

①実施計画書の作成



集落から要望を提出・事務局で取り纏め

②施工施設の選定

毎年度、優先順位・地域性を考慮し施工施設を選定

③現地調査・関係者打合せ



④設計書作成(測量)



構成員が直営で実施

外部委託

直営施工

直営施工の施設を優先的に実施

⑤見積徴収

⑥契約締結

⑦施工

⑧完成検査

⑥資材調達

⑦構成員による施工

⑧完成検査



直営施工班 を設置

- 地域内の土木作業・重機オペレータ等の経験者を中心に構成
- 施工場所の集落は、工事打合せ・施工・施工監理等への参加が要件
- 直営施工に意思表示を行った集落の施設を優先実施



運営委員会

グリーンネットさばえ

👉 構成員の直営で測量・図面作成・積算を実施！

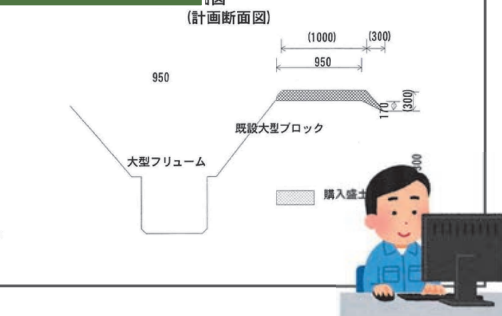
測量



施工位置図



標準断面図



工事設計書

設計書

事業名

資源向上支援（民生奉化）

工事名

樋部水路清掃工事

路線名

樋部町地保水路

河川名

設計工事費

水路法整備工事 1式

水路法整備工事 工事費内訳書

工事区分・工程・種別・規格	単位	数量	単価	金額	備考
樋部水路清掃工事 樋部町地保水路					
土工					
溝畔植物除去 80.4人/日利用	式	1.0		833,000	
溝畔整形工 80.4	m	313.0	300	93,000	
ダンプトラック運搬 41車 表土	m	313.0	500	155,000	
材料 購入土盛土	m	33.0	2,500	75,000	
溝畔盛土工 堀内運搬路土	m	33.0	2,900	96,000	
法面清掃工	m	33.0	3,000	99,000	
法面植樹工	m	240	500	120,000	
法面植樹工	m	240	1,000	240,000	
直営工事費計	式	1.0		833,000	

現場調査



グリーンネットさばえ

事例① 直営施工班の結成

👉 直営施工班 結成のキッカケ！

H23 年度 農地・水・環境保全向上対策（向上活動）が創設がキッカケ



自分たちでもやってみよう！
外注すると工事費が高くなるので直営施工を始めよう！
まずは、ベンチフリームを一輪車で運ぶことから開始！



2～3回の経験 土工をする者・水路を据付ける者等、得意なことができてきた！

直営施工ができる体制となっていき 直営施工班 が誕生！



事務局（指揮）



測量経験者



土木作業経験者



重機オペレータ

集落 委員が段取り

要件

- 人の手配
- 資材の調達等



グリーンネットさばえ



1つの集落から始まり徐々に広まり直営施工の総延長約570m！

水路溝畔の整備



準備(法面清掃等)



側壁補修



法面整形



法面補修



グリーンネットさばえ

素掘り水路からコンクリート水路への更新



掘削



フリューム布設



水口設置



フリューム布設



完成



グリーンネットさばえ



直営施工の主な実績 施工費が大幅に減少(請負費の約4割)！

項 目	施工 1	施工 2	施工 3	施工 4	施工 5	施工 6
活動実施日数	9月27日～10月11日	10月16日～12月4日	9月22日～10月18日	10月30日～12月1日	9月27日～10月19日	9月30日～10月19日
施工日数	6日間	9日間	10日間	9日間	11日間	11日間
施工地区	出口木引	原	出口木引	曲木	出口木引	出口木引
工事種別	水路工	水路工	水路工	水路工	水路工	水路工
工事概要	J8F400 L=100 更新 土水路よりコンクリート 水路へ	J8F300 L=51 更新 土水路よりコンクリート 水路へ	J8F400 L=129 更新 土水路よりコンクリート 水路へ	J8F300 L=67 更新 水路の布施替え	J8F400 L=112 更新 土水路よりコンクリート 水路へ	J8F400 L=112 更新 土水路よりコンクリート 水路へ
施 工 費						
J8F400	251,423	85,050	586,005	269,935	526,392	524,664
重機・ダンプ等リース代	9,500	64,144	55,000	124,150	78,750	62,500
その他材料費	10,957	20,292	72,748	33,293	57,714	37,204
お茶・菓子等	23,350	11,857	7,914	8,032	18,071	8,681
日当	138,000	123,000	239,000	189,000	249,000	189,000
施工費合計(円)	433,230	304,343	960,667	624,410	929,927	822,049
施工単価(円/m)	4,332	5,968	7,447	9,320	8,303	7,340
日当明細	184時間/750円(10人)	164時間/750円(8人)	239時間/1000円(11人)	189時間/1000円(7人)	249時間/1000円(10人)	189時間/1000円(10人)
備 考	ほぼ、人力による作業	ベースモルタル打	側溝上 鉄鋼板橋設置	600樹設置 接続道路下バキュームに よる泥上	側溝上 鉄鋼板橋設置	水路横農道購入土入れ

Point!



重機は地元業者等の協力で時間単位での使用料
型枠等は直営で製作・購入土の直接購入
二次製品の見積入札・必要資材はホームセンター等で購入

グリーンネットさばえ

事例② 草刈り作業の効率的な実施



大型草刈機(モア)による草刈の実施！

将来的な草刈り作業の労力補完を図る取組みとして大型草刈機による草刈りの実施！
作業の効率化・合理化による将来的な労力補完を目的に 草刈隊 を設置！

実施体制 (中野地区)

項 目	概 要
対象施設	高い法面や地域共用的な農道等
実施期間	毎年5月～10月のうち3日間×3回
実施日数	9日間(72時間)
作業面積	11,120㎡/3日間
作業延長	5,560m/3日間
機器所有	グリーンネットさばえ(中野)
機械操作日当	1,000円/時間
機械借上単価	2,750円/時間(燃料費込み)

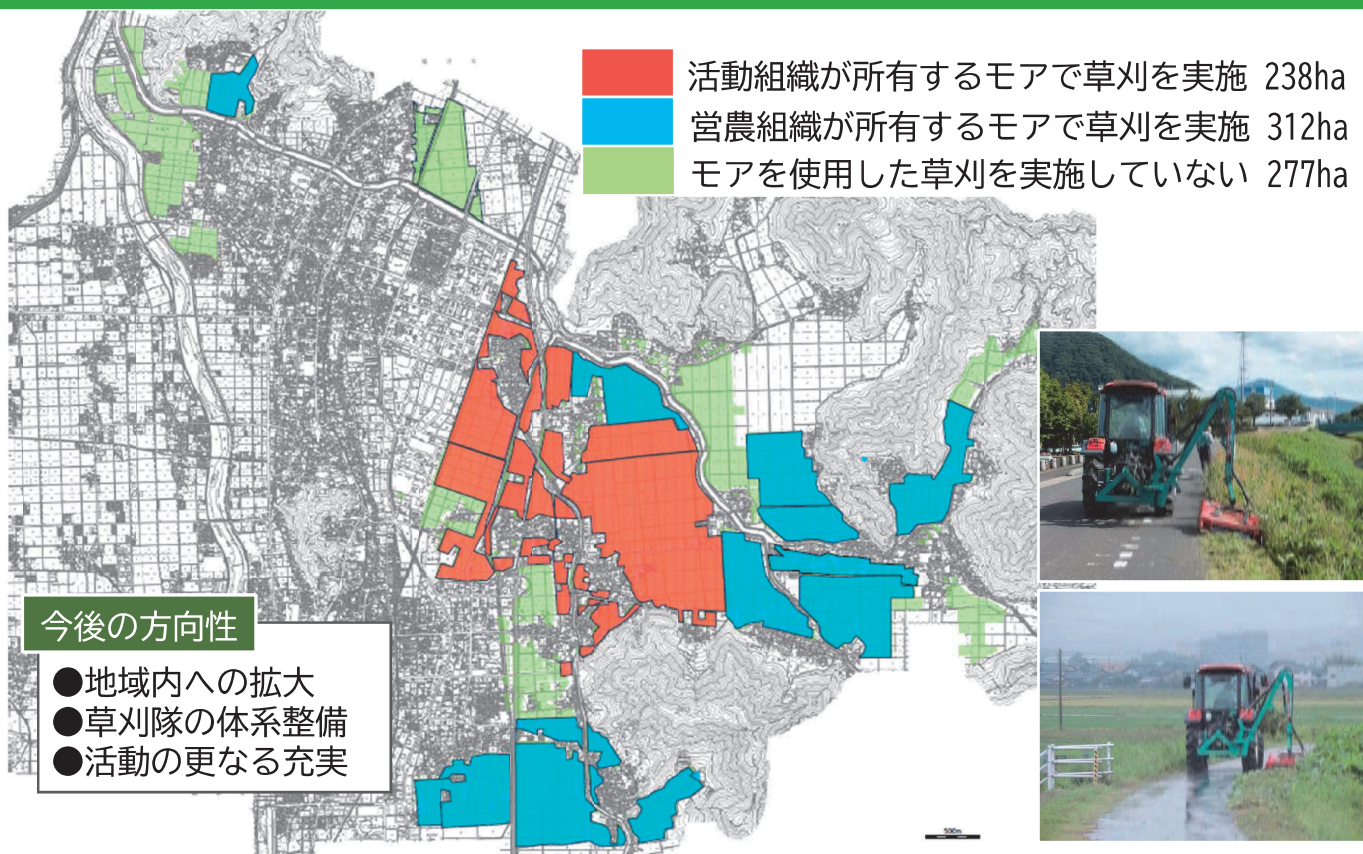
Point!



使用後の刃の手入れや二枚刃の両面使用等で
刃の交換は1回程度と修理費の低減化



グリーンネットさばえ



グリーンネットさばえ



授業の一環とし伝統的農法による**農業体験**を実施！

中河小学校・エコネットと連携し**3年生を対象**に継続実施！
 前の年の2年生の時にレクチャーも行っている。

教育の場
 地域交流の場

田植え



稲刈り



はさ掛け



脱穀・精米



収穫祭(餅つき)



収穫祭(試食)



グリーンネットさばえ



地域内の各地で子どもを対象に環境学習会を継続実施！

実施内容

- ①ビオトープを活用した生きもの調査
(伝統的農法による農業体験と連携したシリーズ化)
- ②農業用水路での生きもの調査



ビオトープでの生きもの調査



看板の設置



児童が環境学習会で感じたものを絵に描いてもらい看板を製作

教育の場
地域交流の場

水路での生きもの調査



グリーンネットさばえ

新たな多面的機能の発揮による地域コミュニティ



ファームポンド(配水槽)でのバイオリンコンサートの開催！

過去には、このようなこともありました。

実施に至った背景

地元の弦楽四重奏団より、
バイオリン演奏の練習の場とし利用の申し出があり承諾
演奏の響きが地元知れ渡り、コンサート開催の声に発展！



配水槽でのバイオリンコンサート



水槽の上であることやファームポンドを囲む杉並木により
やわらかく心地よい響きがえられ、農業水利施設の新たな多面的機能を発見！

今後も、地域住民や多様な団体等との交流の場とし
農村コミュニティの強化や広報活動の一環として取り組みたいです！

グリーンネットさばえ



さばえ菜花米は、鯖江市のブランド米です！



さばえ菜花米は、田んぼにさばえ菜花の種を蒔き
春に咲いた花の景観を楽しんだ後
緑肥として有効活用する方法で生産したブランド米です！
鯖江市が特産化を進めています。



「エコファーム舟枝」広報誌より

さばえ菜花米を作っている田んぼで
毎年、3月下旬～4月上旬には色鮮やかな黄色い菜の花が咲き誇ります！

さばえ菜花まつり

毎年、4月上旬～中旬頃に開催され満開の菜花を楽しむことができます！

グリーンネットさばえ

今後の展望・課題



課題解消に向け運営委員会で意見交換等を実施！

課題

- 役員の高齢化
- 後継者不足
- 事業のマンネリ化
- 住民の農業や共同活動への無関心化 等々



具体的な
対策は…

営農組織では
20～30代の若者
や女性も就農して
いるが…

今後の展望

- 更なる広域化（鯖江市1組織化等）
- 企業など外部団体との連携 等々

水路等の保全・補修・更新を継続して実施するためには
多面的機能支払交付金制度は重要！

課題の解決、更なる活動の充実に向け
この制度に永続的に取り組んでいきたいと考えています！



運営委員会で意見交換

グリーンネットさばえ



御清聴ありがとうございました。



めがねのまちさばえ

是非、鯖江にお越し下さい。
お待ちしております！

とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業

～農山漁村の保全・活性化に向けた協働活動～

徳島県農林水産部農山漁村振興課
振興・創生担当 犬伏 要輔

1

徳島県の概要



春にんじん



すだち



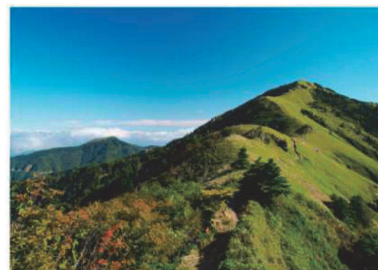
なると金時



渦潮（鳴門市）



阿波踊り



剣山（三好市・美馬市・那賀町）



大歩危小歩危（三好市）

2

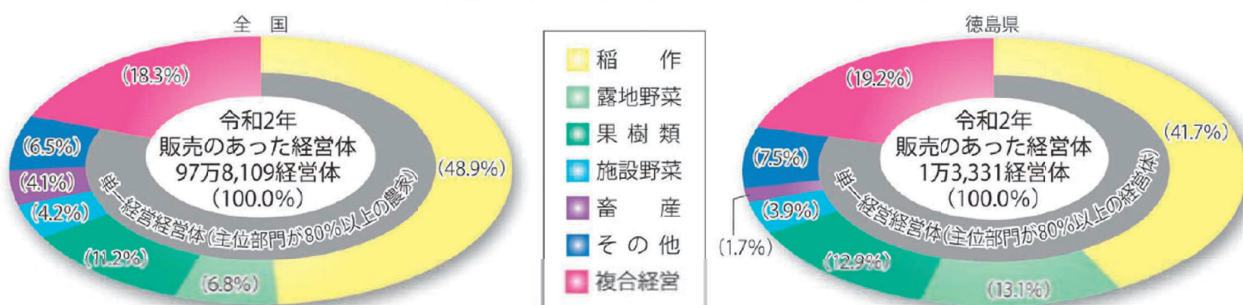
徳島県の農業情勢

● 農家

2020年農林業センサス（令和2年2月1日）における本県の農業経営体数は1万4,568経営体で、2015年に比べ21.3%減少しました。また、農業経営体数のうち家族経営は1万4,263経営体となっています。

農業経営体（家族経営）の経営形態を農産物の販売状況からみると、本県は全国に比べ野菜と果樹のウエイトが高い特徴が出ています。これを単一経営経営体の部門別割合でみると、本県は野菜（露地+施設）が17.0%で全国より6.0ポイント高く、果樹も12.9%で全国より1.7ポイント高くなっています。

農業経営組織別経営体数割合（農業経営体のうち家族経営）

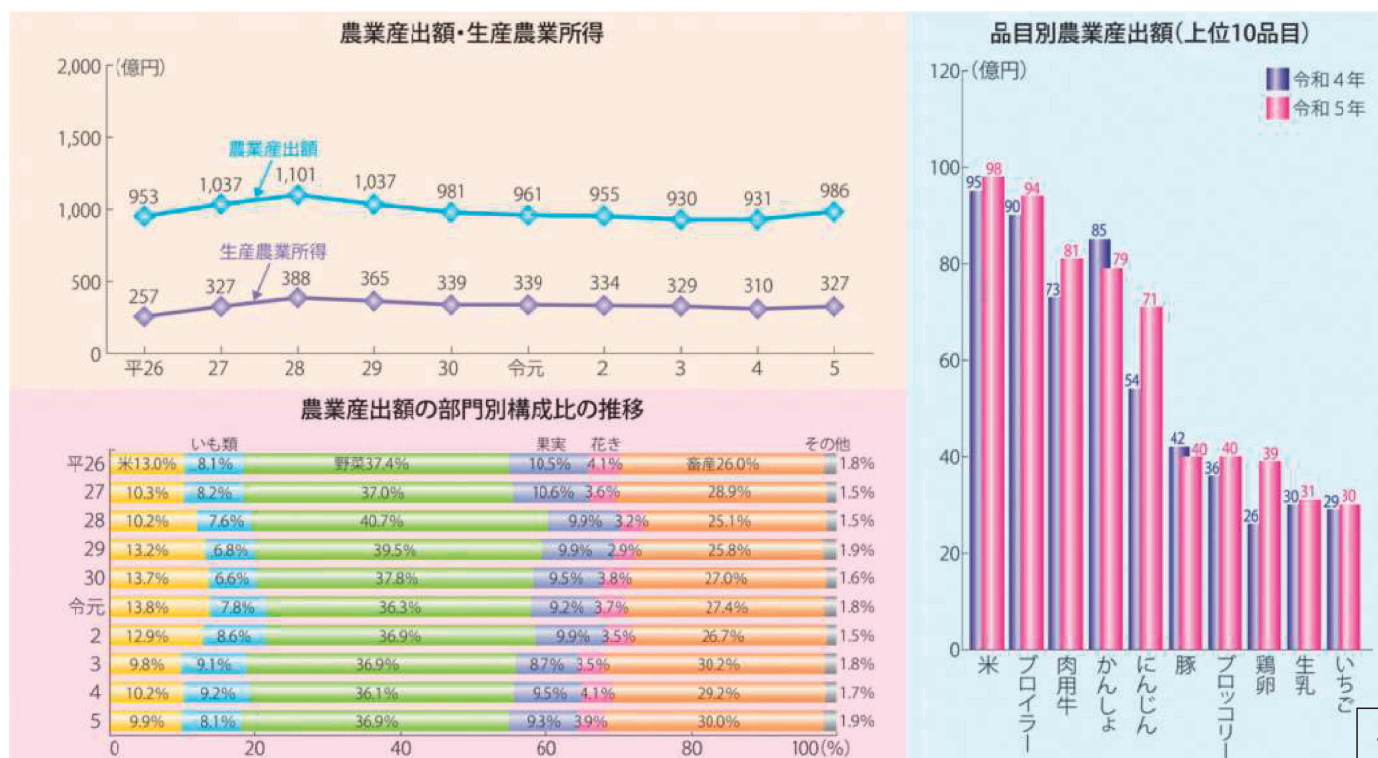


資料：農林水産省「2020年農林業センサス」

3

徳島県の農業生産の概要

徳島県における令和5年の農業産出額は986億円となっています。これを部門別順位でみると、順位は前年同様、野菜が36.9%を占め最も高く、次いで畜産30.0%、米9.9%の順となっています。品目別では米、ブロイラー、かんしょとなっており、上位5品目で全体の約4割を占めています。



4

世界農業遺産「にし阿波の傾斜地農耕システム」

- にし阿波地域（美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町の2市2町）では、標高100～900mの山間地域に200近くの集落が点在しており、400年以上にわたり、傾斜地のまま農耕を行うなど、独自の技や知恵により、自然を守り、生命を守り、集落を守ってきた。
- このエリアで培ってきた山村景観や食文化、そして農耕にまつわる伝統行事などの全てで構成される「傾斜地農耕システム」が、平成30年3月に国連食糧農業機関（FAO）により、「世界農業遺産（GIAHS・ジアス）」に認定されました。
- 当地域の傾斜地農業の維持・発展に向けた取組を県は2市2町と共同で支援している。



5



1 とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業とは

2 とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業の取り組み

3 とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業の今後

6

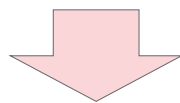
（1）背景：平成22年（2010年）ってどんな年？

AI検索すると・・・

経済不況の影響：リーマンショックを発端とする世界的な経済不況が続く中、日本も例外ではなく、失業率が上昇し、企業の倒産が相次ぐ。

自然災害：ハイチ地震やアイスランドの火山噴火など、自然災害が世界中で発生し、日本国内でもその影響が懸念された。

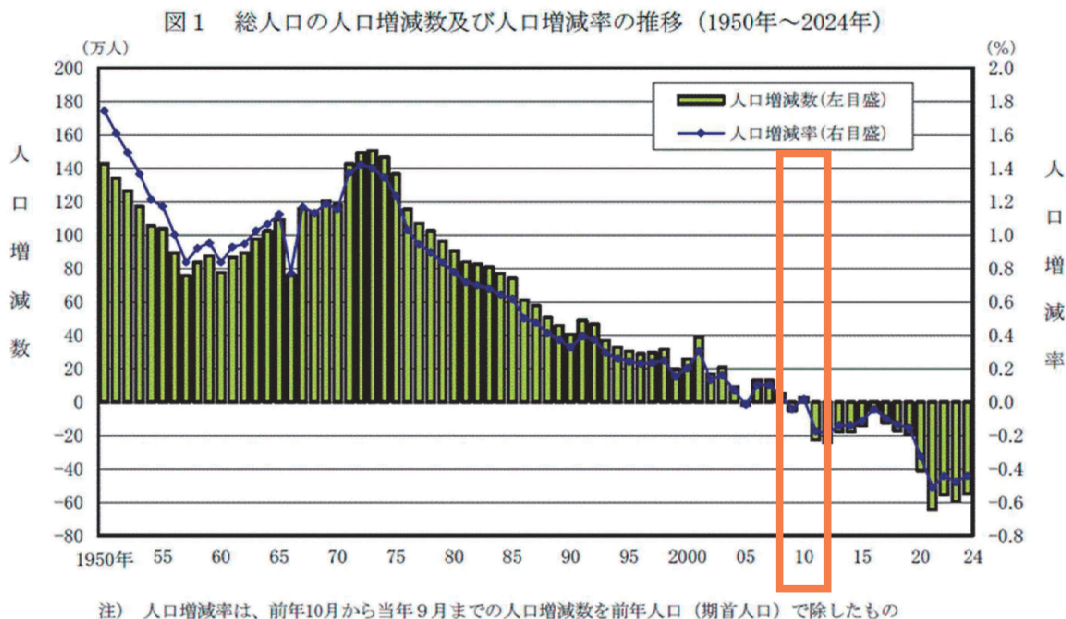
政治の変化：日本国内では前年に政権交代が行われ、新しい政策が模索される中で、国民の期待と不安が交錯していました。
平成の大合併終結。市町村数半減へ。



平成22年（2010年）は、日本国内外で経済的不況や自然災害、政治の変化が相次ぎ、社会や文化に大きな影響を及ぼした年

1 とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業とは

(1)背景:平成22年(2010年)ってどんな年？



総務省統計局「人口推計（2024年（令和6年）10月1日現在）」より

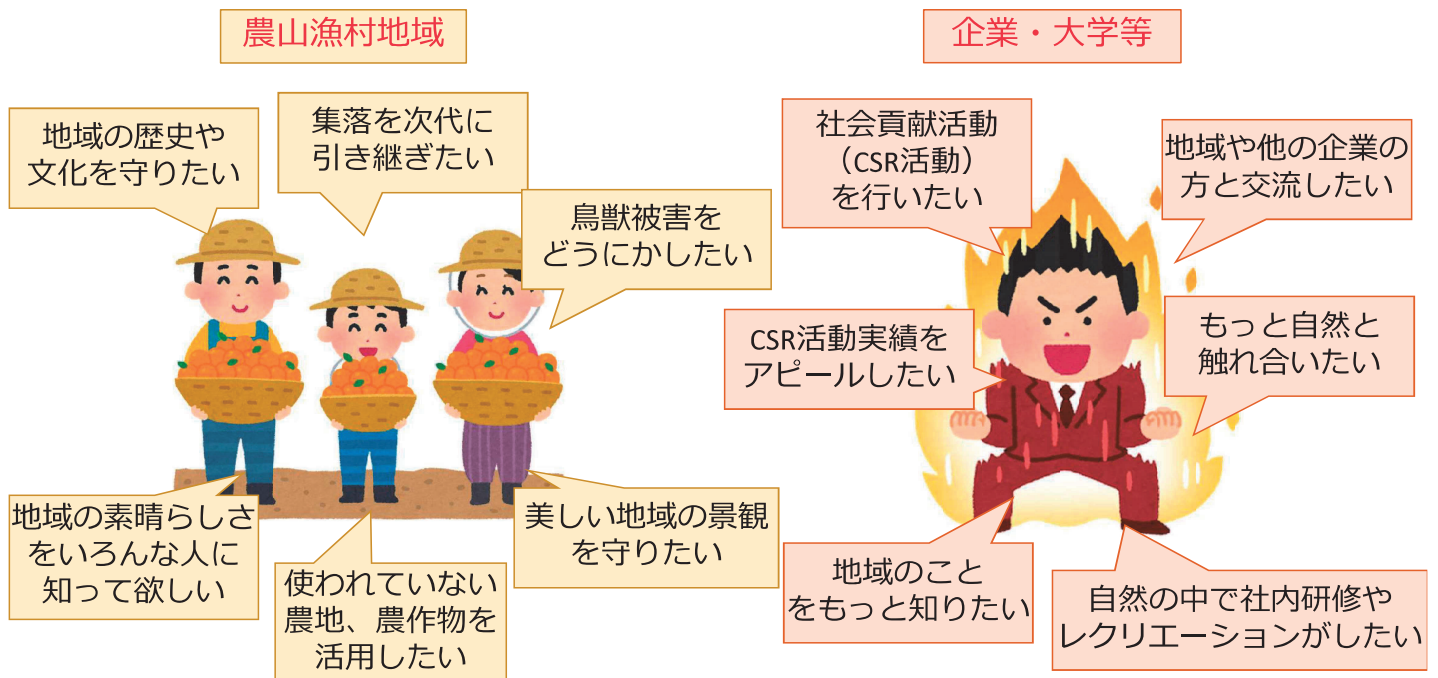
1950～2024年の日本の人口推移の中で、最後に人口の増えた年

この年以降、日本の人口減少が続いている。

9

1 とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業とは

(1)背景:農山漁村地域と企業・大学等の思い

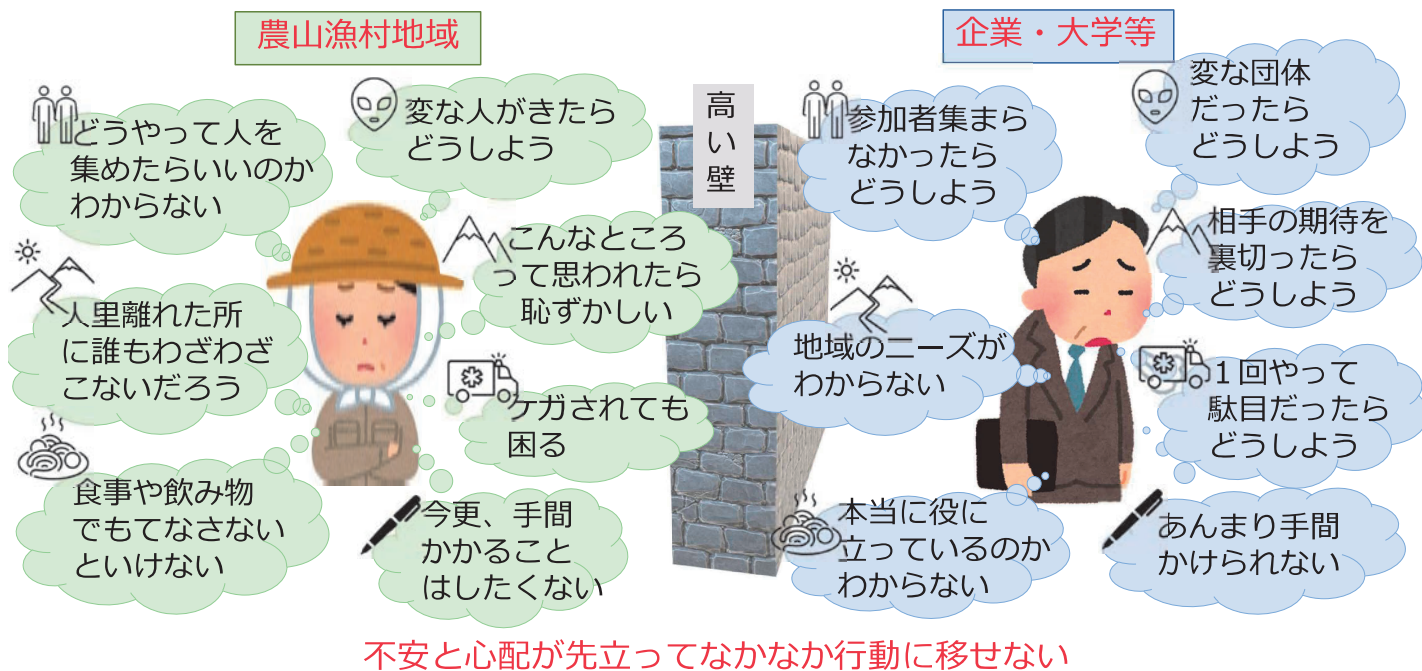


やりたい気持ちはありますが・・・

10

1 とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業とは

(1)背景：農山漁村地域と企業・大学の思い



農山漁村地域と都市部を繋ぐ交流事業が必要！

11

1 とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業とは

(2) とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業の開始

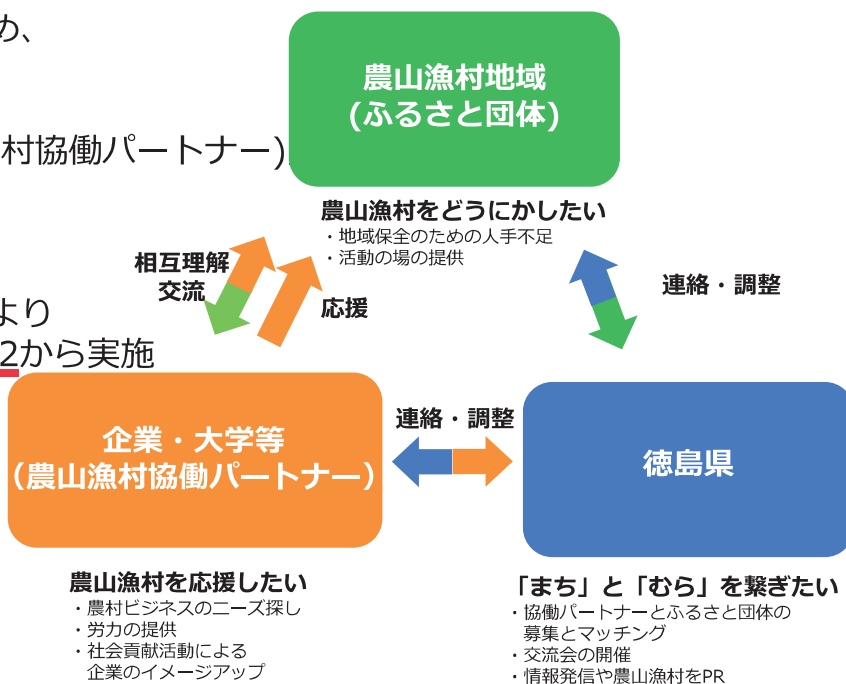
地域活力を呼び起こし、
農山漁村の保全活性化を推進するため、

社会貢献（CSR）に前向きな
「企業・大学・NPO法人等(農山漁村協働パートナー)」
と、応援を求める
「農山漁村地域(ふるさと団体)」

の間を県が取り持ち、両者の協働により
農作業支援や地域の活性化活動をH22から実施



【マスコットキャラクター】
ふるさと応援すだちくん



12

2 とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業の取り組み

13

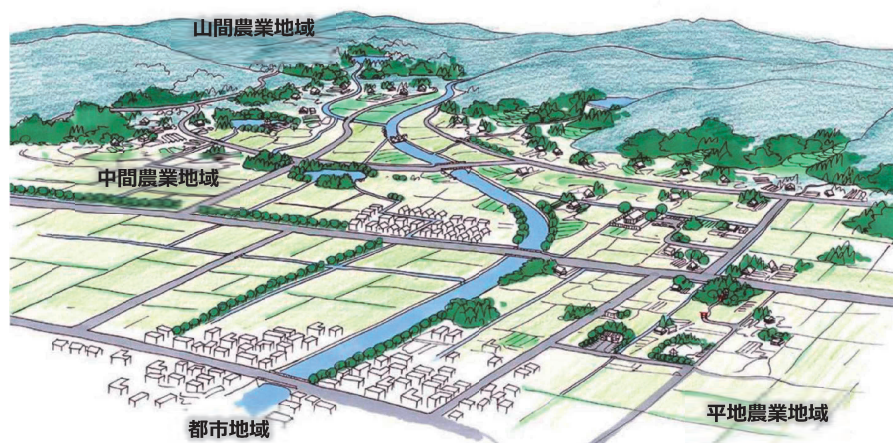
2 とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業の取り組み

（1）用語解説：農山漁村地域＝中山間地域？

農山漁村地域・・・ 周辺に農地や森林が広がり、農林漁業が盛んな地域

中山間地域・・・ 農業地域類型区分のうち、中間農業地域と山間農業地域を合わせた地域
（中間：平地と山間の間を指す。）

→ 必ずしもイコールではないが、
関係法令を見ると、農山漁村地域は概念的な書き方、中山間地域は法に指定された
各地域の総称のような書き方になっている。



14

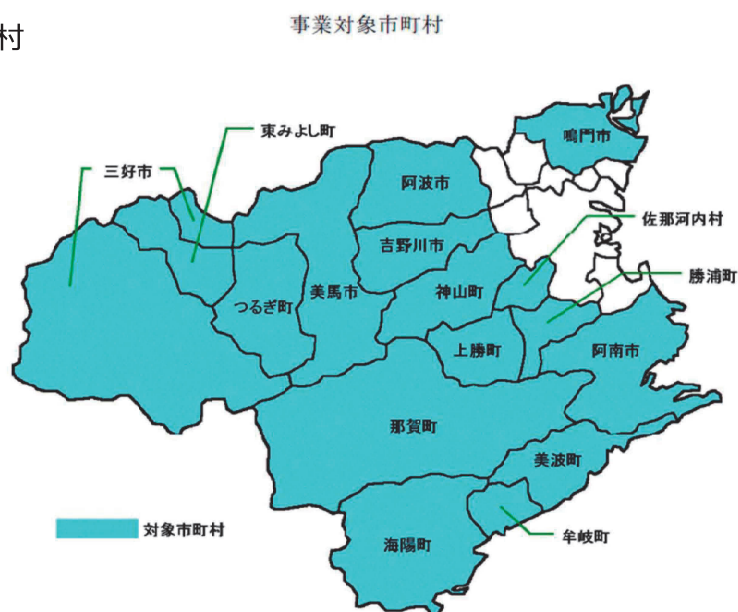
2 とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業の取り組み

（2）事業対象市町村

「離島振興法」「山村振興法」
「過疎地域自立促進特別措置法」
「特定農山村地域における農林作業等の活性化のための
基盤整備に関する法律」
の4法に指定された中山間地域を含む市町村

非対象市町
(24市町村中の8市町)

- ・徳島市
- ・小松島市
- ・松茂町
- ・北島町
- ・藍住町
- ・板野町
- ・上板町
- ・石井町



15

2 とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業の取り組み

（3）農山漁村における協働取組の具体例

方法	具体的な内容
作業支援	◆ 農山漁村環境や景観保全の作業支援 ◆ 農作業等の支援②
得意分野や保有資源を活用したノウハウ・機会・場所等の提供による支援	◆ ノウハウの提供による支援 ◆ 場所や機会等の提供による支援 ◆ 資材や知的財産等の提供④
農山漁村との相互提携による各種事業の実施	◆ 研究テーマに位置づけ、フィールドとして活用 ◆ 教育研修の場として農山漁村地域と交流 ◆ 農山漁村側が展開する交流事業に参画 ◆ その他・顧客サービス事業として、農山漁村での体験ツアーを企画
その他	◆ 伝統文化の継承活動、サークル活動 ◆ 伝統料理講習会・試食会の開催



16

(4) 応援をする側＝農山漁村協働パートナー（以下、協働パートナー）

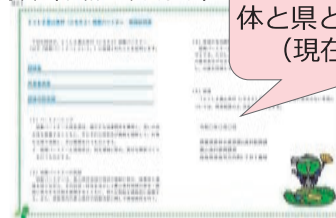
【定義】社会貢献・地域貢献の一貫として農山漁村地域を応援する企業、大学、NPO法人、公共的な団体、その他これに類する団体をいう。

協働パートナーの役割（実施要綱より抜粋）

- (1) 作業の支援
- (2) 得意分野や保有資源を活用したノウハウ・機会・場所等の提供による支援
- (3) 農山漁村との相互提携による各種事業の実施
- (4) その他両者が協議して、必要と認める事項
 - 2 協働パートナーは、自らの得意分野を生かした協働活動を実施するなど、取組みが継続できるよう工夫することとする。
 - 4 協働パートナーは、無報酬で実施する。また、活動に参加するための経費（現場までの交通費、作業の際の保険料等）は基本的には協働パートナー側が支出する。



登録書（令和6年度より）



令和5年度までは各団体と県とが協定を締結。（現在は登録制）

17

(4) 応援をする側＝協働パートナーの概要

所在地	協働パートナー名	登録年度	所在地	協働パートナー名	登録年度	所在地	協働パートナー名	登録年度
徳島市	1 学校法人四国大学	H22	小松島市	42 東とくしま農業協同組合	R2	徳島県	81 日本大学生物資源科学部食品ビジネス学科農村資源開発研究室	H23
	2 一般社団法人徳島県損害保険代理業協会	H22		43 阿南信用金庫	H24	和歌山県	82 南海フェリー株式会社	R元
	3 徳島県農業協同組合中央会	H22	阿南市	44 独立行政法人国立高等専門学校機構阿南工業高等専門学校	R4		83 東京藝術大学芸術学部先端芸術表現科	H24
	4 株式会社キョーエイ	H22		45 株式会社ワイズ技研 徳島支店	R5	東京都	84 株式会社Xeno	R7
	5 大塚製薬株式会社	H22		46 日本フーズ株式会社	H25		85 株式会社トリバーホールディングス	R7
	6 株式会社阿波銀行	H23	吉野川市	47 特定非営利活動法人 吉野川に生きる会	R元	福岡県	86 ウェブコロール株式会社	R6
	7 株式会社徳島大正銀行	H23		48 ケイトグループ	R6	兵庫県	87 株式会社Nihonmoto	R6
	8 徳島インディゴソックス球団	H23		49 一般社団法人 忌部文化研究所	R6		88 奈良徳島県人会	R7
	9 徳島県土地改良事業団体連合会	H23		50 キンダ化学株式会社徳島工場	H29			
	10 市岡製菓株式会社	H24	阿波市	51 近藤化学工業株式会社徳島工場	H29			
	11 株式会社いさわ(テニスアリーナガーデン)	H24		52 山本光孝株式会社(土成工場)	H29			
	12 株式会社イルローザ(株式会社昌栄)	H24		53 中国四国農政局 吉野川北岸二期農業水利事業所	R3			
	13 徳島文理大学	H24		54 ヴェオリア・ジェネックス(株)中・四国支店(吉野川営業所、阿波営業所、阿南営業所)	H29			
	14 徳島合同証券株式会社	H24	美馬市	55 ナカガワ・アド株式会社	H26			
	15 全国農協農協徳島県支部(旧・徳島支店)	H25		56 池田補助株式会社	H25			
	16 学校法人六教学園	H25	三好市	57 特定非営利活動法人マチソラ	H26			
	17 株式会社メディコム	H25		58 社会福祉法人池田博愛会	H27			
	18 徳島中央郵便局	H25		59 コカ・コーラボラータージャパン株式会社 徳島支店	H23			
	19 株式会社松本コンサルティング	H25	石井町	60 徳島県大それたそうじ	H25			
	20 西精工株式会社	H26		61 徳島県学校生活協同組合	R元			
	21 徳島大学	H27		62 サイファーマー株式会社	H25			
	22 芝商事株式会社	H27	美波町	63 木岐良次世代会議	H25			
	23 株式会社福村	H27		64 株式会社あわえ	R5			
	24 株式会社松浦機械製作所	H27		65 一般社団法人みなみ阿波観光局	R5			
	25 四国建設コンサルタント株式会社	H28	海陽町	66 株式会社丸本	H27			
	26 東亜合成株式会社徳島工場	H28		67 株式会社高橋ふとん店	R2			
	27 徳島大学学生生活協同組合	H29	松茂町	68 株式会社ハレルヤ	H24			
	28 徳島ベジシューパ販売株式会社	H29		69 サントリービバレッジソリューション株式会社 徳島支店	H29			
	29 全日本空輸株式会社徳島支店	H30		70 株式会社伊藤園徳島支店	R3			
	30 東武トップツアーズ株式会社徳島支店	H30		71 株式会社ジェイテック徳島工場	H28			
	31 徳島県・市町村間交流協会等連絡協議会	H30	藍住町	72 株式会社アクトリーニング 徳島営業所	R6			
	32 株式会社日本旅行徳島支店	H30		73 徳島工業短期大学	R6			
	33 日本生命保険相互会社徳島支店	H30	坂野町	74 日本協同農林株式会社徳島工場	H24			
	34 株式会社パソナ パソナ・徳島支店	R2	上板町	75 独立行政法人 水資源機構 吉野川下流総合管理所	R7			
	35 徳島県職員団体連合会	R3		76 株式会社リブドゥコーポレーション(徳島県光工場)	H24			
	36 特定非営利活動法人とくしま障がい者就業支援協議会	R3	つるぎ町	77 貞光食品工業株式会社	H26			
	37 生活協同組合とくしま生協	R4		78 日X朝日建材株式会社	H26			
	38 株式会社あわわ	R4	東みよし町	79 株式会社中村陶器舎印刷所	H26			
	39 健祥会グループ	R5		80 有限会社三木産業	H26			
	40 徳島市立高等学校	R6						
	41 美馬商事株式会社	R7						

令和7年度9月末時点
協働パートナー数 88団体
うち、県内80団体
県外 8団体

【内訳】

一般企業 61団体
団体 14団体
行政関係 3団体
教育関係 10団体

多様な団体が参加



協働パートナー一覧

18

2 とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業の取り組み

（5）応援を受ける側＝ふるさと団体

【定義】地域外の有志と「協働」で農山漁村の維持保全・活性化に取り組む意思のある、農山漁村地域の住民で組織する団体やNPO法人、市町村等をいう。

ふるさと団体の役割（実施要綱より抜粋）

- (1) 協働活動の取組へ向け、地域住民の合意形成を図る。
- (2) 協働パートナーとの相互理解に努める。
- (3) 協働パートナーとの連絡調整を密にし、円滑な受入を行う。
- (4) その他協働活動の実施に必要なこと。
- (5) 協働パートナーと協働活動を実施している旨の表示
- (6) 協働活動の実績の地域内外への情報発信

令和7年度9月末時点
ふるさと団体数 63団体

ちょうさ担ぎ支援
（美波町）



ゆず収穫支援（吉野川市）



間伐体験（那賀町）



畑の草刈り支援（牟岐町）



ふるさと団体一覧

40

2 とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業の取り組み

（6）協働活動当日までの流れ

前年度末 **1** ふるさと団体が年度末までに次年度の事業実施計画を県へ提出する

- * 年度末提出時は大まかな内容で構わない
- * 年度途中でも随時活動を受け付け
- * とりまとめて、全協働パートナーに共有

活動1～
1ヶ月前

2 ふるさと団体は集合時間や参加者の準備物などを県へ連絡

3 県から協働パートナーへ活動の募集案内をする

活動1週間前

4 県で参加者を取りまとめ、ふるさと団体へ報告する

- * 天候不順等からの中止の判断は基本、前日17時までに行う。

5 協働活動当日 楽しく安全に作業！

2 とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業の取り組み

(7)協働活動当日の流れ

- 1 はじめのあいさつ（司会進行：県）
 - ・ 自己紹介、団体紹介（協働パートナー）
 - ・ 作業説明、諸注意（ふるさと団体、県）
 - ・ 飲料、軍手等を配布
- 2 作業開始
【作業管理上の注意点：県】
 - ・ 作業の進捗状況にかかわらず予定時間で終了
 - ・ 暑さの厳しい日は水分補給や休憩を促す
 - ・ 写真、動画撮影等作業の記録を行う
- 3 終わりのあいさつ（司会進行：県）
 - ・ 参加者の感想（協働パートナー）
 - ・ ふるさと団体からの一言（ふるさと団体）
 - ・ **集合写真撮影**



はじめのあいさつ



作業



終わりのあいさつ

21

2 とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業の取り組み

(7)協働活動当日の流れ

・ 集合写真撮影



22

(8) 応援し隊を実施した感想

ふるさと団体

【事業全般について】

- ・地域住民だけでは大変な作業なので、応援に来ていただき大変助かっている
- ・去年はスタッフが少なく大変だったのでとても助かった
- ・おかげさまで、予定より早く作業を終えることができた

【作業について】

- ・集落の人手が減っている中で、外から来ていただいて暑い中手伝っていただけるのはありがたい
- ・地元民が嫌がる作業にまさか本当に人が集まるとは思わなかった

【人について】

- ・応援にきてくれるならと、地元参加者が増えた

【きっかけについて】

- ・県が間に入って来て安心して受け入れできた

協働パートナー

【事業全般について】

- ・ふるさとの役に立て良かった
- ・農作業の大変さがわかった

【作業について】

- ・活動を通して徳島のいろんな地域を知れるいい機会だった
- ・活動にやりがいがありとても楽しめた

【人について】

- ・地域の方々との交流が貴重な体験となった
- ・美しい景色の中で、多くの皆さんと楽しく作業ができた

【きっかけについて】

- ・初めてこの地域に来た。まだ訪れたことがない人にも伝えたい

23

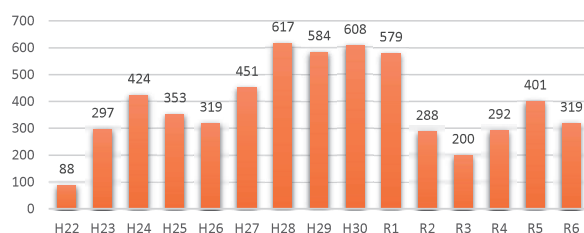
(9) 活動実績(H22-R6)

累計参加人数 5820人
累計活動日数 465日

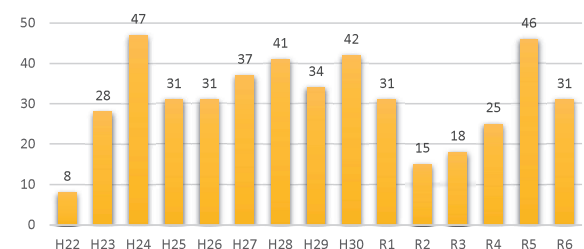
活動内容一覧

- ・ゆずの収穫
- ・すだちの収穫
- ・はっさくの収穫
- ・さつまいもの収穫
- ・椎茸の植菌
- ・梅のヘタ取り
- ・棚田の保全
- ・石積みの保全
- ・段々畑の景観向上
- ・神輿の担ぎ
- ・農村舞台の準備・運営
- ・イベントの準備・運営

参加人数



活動日数



24

(10) 都市と農村の間を取り持つ＝県

県の役割（実施要綱より抜粋）

- (1)協働パートナーの募集
- (2)協働パートナーの支援を要望するふるさと団体の募集、調査
- (3)ふるさと団体と協働パートナーのマッチング
- (4)推進会議及び協働活動の実施に必要な研修会等の開催
- (5)協働活動実施上の調整
- (6)協働パートナーの登録状況や協働活動の実績の公表
- (7)新たな協働パートナーの掘り起こし
- (8)事業の効率的な推進に向けた市町村との連携
- (9)「とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊認定証」の発行
- (10)その他協働活動のPR

協働活動の司会進行



事業説明



研修会開催



25

(11) よくある質問(マッチング編)



Q 1 どうやって新規の協働パートナー、ふるさと団体を獲得しているのか。

A 1 協働活動のPRを幅広く行い、事業の周知を図っています。PRを見て団体から問い合わせのある場合もあれば、協働パートナーやふるさと団体からの紹介、県事業に関連する様々な団体に関係課から紹介いただき、直接説明に行くこともあります。



Q 2 各団体との連絡・調整はどのようにしているのか。

A 2 県担当者が各団体の窓口でメールの一斉送信しています。令和2年度以降、企業に連絡・調整業務を委託しています。最近、応援への参加とりまとめは無料のオンラインフォーム作成ツールを活用するようになりました。



Q 3 協働活動の当日、県は参加するのか。

A 3 原則、参加します。開始と終わりの司会進行、当日のスケジュール・作業管理を地元と相談しながら行います。一部、委託業者をお願いしている活動もあります。



26

2 とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業の取り組み

（参考）応援し隊事業のPR



地方新聞



タウン情報誌



県HP

県SNS



ケーブルテレビ

27

2 とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業の取り組み

（11）よくある質問（マッチング編）



Q 4 相手団体がどんな団体か知りたい。

A 4 気になる団体があれば、県にお問い合わせください。県が募集する協働活動以外にも、地域や企業、大学等の連携先をお求めであれば御紹介いたします。また、毎年、「ふるさと団体」「協働パートナー」の交流会を開催していますので、御参加ください。



交流会の様子



R 6 クイズ大会 & 意見交換



R 5 ワークショップ
お題「農山村保全のために自分たちができること」

28

2 とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業の取り組み

（12）よくある質問（協働パートナー編）



Q 5 企業としてすでに地域貢献に取り組んでいるが、応援し隊に参加するメリットは？

A 5 通年で様々な内容、地域で活動があるので、活動の裾野が広がります。活動の内容は、県がHP、SNS、事業パンフレットなどで広く情報発信します。また、参加日数10日以上かつ参加者100名を達成された協働パートナーには県が感謝状を贈呈します。



Q 6 協働パートナーが負担する経費はあるのか？

A 6 協働パートナーである企業・大学、または参加者個人に参加に必要な交通費及びボランティア保険の保険料をご負担いただきます。また、作業に必要な服装や、必要な飲食は原則、参加者個人でご準備ください。ただし、県で、ペットボトル1本の飲料と軍手の配布、草刈り鎌や収穫ばさみ等の貸し出しをする場合がありますので、個別の募集の詳細を御確認ください。



29

2 とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業の取り組み

（参考）感謝状の贈呈（H26～）



【感謝状の贈呈の基準】

- 1 協働パートナーとして県と協定を締結した日以降の協働活動が、累計で10日以上、且つ、累計参加人数が100人以上であること
- 2 「自社商品の提供」の協働パートナーにあっては、協働活動への商品提供の累計回数が20回以上とする。

令和6年度末時点
感謝状贈呈 19団体

年度	協働パートナー名	主な活動内容
H26	学校法人 四国大学	農村舞台設置、集落の環境整備等
	徳島インディゴソックス球団	「坂本ひな街道」設置、御輿担ぎ等
	(株) リブドゥコーポレーション	農村舞台設置、集落の環境整備等
	大塚製薬(株) 徳島本部	飲料の提供
H27	四国コカ・コーラボトリング(株) 徳島支店	飲料の提供
	(株) 阿波銀行	ユズの収穫、集落道の整備等
	NPO法人 ウイ・ライク・リバー 徳島	里山の景観保全、集落道の整備
H28	西精工株式会社	農村舞台設置、集落の環境整備等
	中国四国農政局 四国東部農地防災事務所	ごうしゅいも収穫、集落道の整備等
	日本酪農協同株式会社 徳島工場	飲料の提供
H29	(株) 徳島銀行	棚田保全、古民家の再生等
	松本コンサルタント	農村舞台設置、集落の環境整備等
H30	(株) 福村	飲料の提供
R1	BX朝日建材(株)	棚田保全、集落の環境整備等
R2	徳島県農業協同組合中央会	八朔の収穫作業、集落の環境整備等
R3	(株) ジャパンビバレッジ 徳島支店	飲料の提供
	徳島ペプシコーラ販売(株)	飲料の提供
R5	徳島文理大学	ゆず収穫作業、地域イベント活動支援等

30

(12) よくある質問(協働パートナー編)



Q 7 学生は山奥まで行く交通手段がないが、支援はあるのか？

A 7 交通手段の確保が難しい学生や1台の自動車への乗り合わせができない参加者10名以上の場合は、県が現場までの交通手段を支援します。



Q 8 各団体の責任者の同行は必要か？

A 8 必要ありません。当日は県もしくは県の委託業者が進捗管理を行います。なお、前日もしくは当日の緊急連絡先として、参加者全員と連絡がとれる参加者代表の方を各団体毎に事前に教えていただきます。



Q 9 参加者数、参加日数などのノルマはあるのか？

A 9 ノルマは設定していません。各団体の御都合に合わせて御参加ください。



31

(13) よくある質問(ふるさと団体編)



Q 10 応援にきてもらうのに事務手続きはどれくらい必要か。

A 10 ふるさと団体に登録後は、年に1回、年間スケジュールの調査はありますが、応援毎に報告書などの書類作成は必要ありません。

応援の募集に向けて、1ヶ月半前から県と電話やメールで詳細のやりとりは必要です。



Q 11 応援を呼ぶのに費用はかかるか。

A 11 原則、ふるさと団体の費用負担ありません。応援に必要な交通費、飲食費、保険料等は協働パートナーもしくは協働パートナー側の参加者個人の負担でお願いしています。



Q 12 農作物の収穫作業は応援してもらえるか。

A 12 応援は可能ですが、あくまで都市と農山漁村の交流が目的の有志のボランティアですので農作業経験はないことを前提に作業を割り振ってください。

作業によって商品価値を損ねる可能性があること、時間内にノルマを達成できないことをご承知ください。



32

(13) よくある質問(ふるさと団体編)



Q 1 3 作業を行うにあたって注意点は何か？

A 1 3 農村と都市との交流を図ることが目的であるので、ふるさと団体と協働パートナーでなるべく同じ場所で、協力して作業を行うようにしていただきたい。



Q 1 4 応援への参加者がいない時はどうなるのか。

A 1 4 応援は中止になります。万が一、応援への参加者がいなくても作業ができるよう人員配置を行ってください。



Q 1 5 草刈り機を持ってきてもらえるか。

A 1 5 参加の条件として付け加えることは可能ですが、条件を付けるほど参加者は集まりにくくなります。
なお、手作業でも人数が集まれば、同じ時間で草刈り機以上の作業を行うことができます。



33

(13) よくある質問(ふるさと団体編)



Q 1 6 地域で昼食を作るが、費用の負担を求めているか。

A 1 6 構いません。参加者に費用負担を求めたい場合、応援の募集時にその旨と金額等を事前に明示しますので事前に御連絡ください。



Q 1 7 参加者にお土産を渡してもいいか。

A 1 7 原則、必要ありませんが、お土産、食事を提供いただけると協働パートナーも喜びます。取り組みを続けるにあたり、無理のない範囲でお願いします。

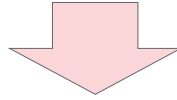


34

(13) よくある質問(ふるさと団体編)



Q18 多くの人に毎年繰り返し応援して欲しいが、どうしたらいいか。



この質問に対しては、過去に実施したワークショップに基づいて回答をしています。

35

(参考)平成23年度とくしま農山漁村(ふるさと)応援し隊推進會

①応援しに来てくれてうれしい協働パートナー ふるさと団体	
・若者が来てくれるとうれしい。	協働パートナー
☆ 学生さん、大学生の方々とワークショップをしたい。	
☆ 学生さん（1泊2日ぐらいの長期体験）。	
☆ 小学生～大学生まで	
☆ 若者、学生（大学・高校）（四国大学以外に経験無し。）	
☆ 若い人が沼山来て欲しい	
・幅広い交流ができるとうれしい。	
☆ 年齢は問題ない。	
☆ いろいろな職業の人。（特定の業種ではなく。学生も含めた。）	
☆ 一般人（大人）	
・地域の活性化をうながしてくれるとうれしい。	
☆ 大学の研究として捉えて限界集落について研究テーマとして作業に参加して欲しい。※土、日に限らず参加できるのでは？	☆ 異業種の方からお話を聞かせてもらえるような団体が楽しいかな。
☆ 事業化にプラスとなる何かを与えてくださる方々に応援して欲しい。	☆ 農山村の今後の産業に結びつく様な企業の協働パートナーに来て欲しい。
☆ オーナー制（水田、果樹）。団体として受付中。	☆ 新しい情報や提案（知恵）をしてくれるパートナー
☆ 企画立案段階から協力してくれる団体さん。	
☆ 同じような団体の活動交流みたいな感じ。	
・活動を楽しんでもらえるとうれしい。	
☆ 自然が好きの人。	☆ 作業を楽しんでもらえるパートナー
・継続して来てもらえるとうれしい。	
☆ やる気があり、継続した関係が築ける人。	☆ 来て欲しいと思われない。
☆ 毎年来て欲しい。	

今後の活動の在り方を探るため「ふるさと団体」「協働パートナー」が相手の気持ちを想像するワークショップを実施。

「応援しに来てくれてうれしい協働パートナーとは？」とのお題で意見を集約した結果、

「ふるさと団体」が挙げた
・若者が来てくれるとうれしい
・幅広い交流ができるとうれしい
という、

「ふるさと団体にとって協働パートナーが応援に来てくれるだけでうれしい」との意見は、協働パートナーは想像がつかなかったようです。

応援し隊推進会の様子



36

(参考)平成23年度とくしま農山漁村(ふるさと)応援し隊推進会

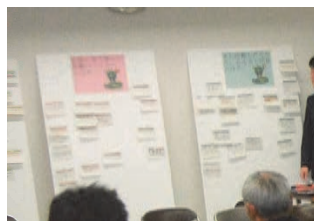
②また活動したいふるさと団体	
ふるさと団体	協働パートナー
・理念のある団体と活動したい。	
☆ 生活の知恵技術がある。	☆ 未来を見据えて、その目的、目標が明確な団体
☆ 活動内容と応援団体の理念とが一致している団体	
☆ 事業化を目指して真剣に取り組んでいる方々を応援したい。	
☆ 目的がしっかりしている団体	
☆ 未来の子ども達につなぐ森づくり	
・地域の事が色々聞けるアットホームな団体と活動したい。	
☆ (受け入れ側なので回答は控えますが...) 集落としてまとまりがありいろいろなグループの人々に来ていただきたい。我々は比較的オープンなつもりです。	☆ 年齢・体力的に、体を動かす支援より、室内でお手伝い品柄、地元の方とコミュニケーションの取れる支援がありがたい。毎年、声を掛けていただければいいです。
☆ 地域の話が聞けるところ。	☆ アットホームな雰囲気のある団体
☆ 山間地でおりますので、できれば海の方と何か活動できれば。	☆ 応援した団体が食であれば食べたり、食でなくとも関連した事が体験できればよい。
	☆ 意見交換できたり、現地の活動を聞けるような団体
・地域の子ども達と活動したい。	
	☆ 子ども達と一緒に参加できる活動
・活動内容が楽しい活動がしたい。	
☆ 郷土料理が出るところ	
☆ 提供する側から、	
・ 美郷石積み+修復体験	
・ 美郷梅作り(剪定、収穫、梅酒づくり)	
・ 川遊び、キャンプ	
・ まわりおどり復活プロジェクト(おんど・おどり・夏祭り)とか?	
☆ 個人的には、民宿+ハイキング登山(案内付き)。ドザ等実習も。	
☆ 楽しく活動できる	
・事務的にやりやすい活動がしたい。	
	☆ 活動する日程が、少なくとも1ヶ月前に決まっている団体。業種は特に問いません。(仲間を集める時間が必要となります。)

「また活動したいふるさと団体とは?」とのお題で意見を集約した結果、
「ふるさと団体」か協働パートナーの立場に
立って想像した

・活動内容が楽しい活動がしたい
という意見については、「協働パートナー」から
挙がりませんでした。

「協働パートナー」から多く寄せられたのは、
・地域のことがいろいろ聞けるアットホームな
団体と活動したい
という意見でした。

応援し隊推進会の様子



37

(13) よくある質問(ふるさと団体編)



Q18 多くの人に毎年繰り返し応援して欲しいが、どうしたらいいか。

A18 作業中や作業の合間の休憩時間に、応援してもらっている作業の意味、地域の歴史や文化のこと、応援にきてくれてうれしいこと、また次の時にも参加して欲しいことを伝えてください。

また、応援の募集の際にも、作業内容は「草刈り作業」であったとしても、耕作放棄地解消、お祭りの準備、小学生の通学路の安全確保、地域の景観保全、鳥獣被害対策など、作業の効果や価値を説明すること、また、作業の根底にある地域のストーリーを発信することが大事です。



休憩中の雑談



作業後の地域の魅力発信

とくしま農山漁村（ふるさと）
応援し隊事業が続いている
理由かも？

38

2 とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業の取り組み

（例）活動の募集案内

R7とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊

7月6日（日）忌部の里守り隊 道路清掃



募集内容

作業内容	鳴滝から猿飼集落までの道路清掃
活動日時	7月6日（日曜）8時～11時半
活動場所	鳴滝から猿飼集落
集合場所・集合時間	7時50分 猿飼分校（美馬都つるぎ町貞光猿飼134）
雨天の場合	前日に判断
希望応援人数	3名程度
持ち物	帽子、タオル、水筒、手袋、動きやすい服装
ボランティア保険	事務局にて加入手続きいたします

徳島県一の鳴滝からそばの花咲く観光農園のある猿飼集落までの道路清掃です。ピンクの可愛い猿飼分校、土釜など見どころいっぱい！集落の方とお話ししながらお手伝いよろしくお願いします

参加に際しての注意事項

- 活動当日に撮影した写真は、応援し隊ホームページやInstagram、広報等で使用する場合があります。顔が写っている写真を使用する場合がありますので、あらかじめご了承ください。不都合のある方は、当日担当者にお申し出ください。
- 天候や新型コロナウイルスの影響等により、中止となる可能性があります。中止の場合は団体の代表者様に連絡しますので、「代表者の電話番号（活動当日につながる連絡先）」をお教えください。
- 活動地までの交通手段についてお困りの方は、条件によっては事務局で手配可能な場合があります。お気軽にご相談ください。

初募集の活動内容です！

とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事務局
株式会社徳島新聞オアシス
【担当】栗田、三郎
【電話】088-656-7300 【FAX】088-623-1117
【メール】info2@tnews.co.jp




R7とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊

10月18日（土）上喜来秋祭り実行委員会 地区内・屋台練り歩き（引き手） 及び 運営手伝い（軽作業及び料理手伝い）



募集内容

作業内容	地区内・屋台練り歩き（引き手）及び運営手伝い（軽作業及び料理手伝い）
活動日時	10月18日（土曜）13時～17時
活動場所	事代主神社（阿波市市場町上喜来字蛭子2030番地）
集合場所・集合時間	12時半 事代主神社（阿波市市場町上喜来字蛭子2030番地） （車の駐車は境内敷地内可能）
雨天の場合	前日正午に判断（災害級の雨以外は実行）
希望応援人数	5名程度（お子様の参加大歓迎）
昼食	ふるさと団体にてご用意いたします（15時に弁当用意）
持ち物	特になし（動きやすい服装）
ボランティア保険	ふるさと団体にて加入手続きいたします

◇希望者は、応援し隊活動終了後の参加も可能です。夜食の準備もご用意します。
◇こまめな水分補給、休憩を心がけ、無理のないペースでの活動をお願いします。

参加に際しての注意事項

- 活動当日に撮影した写真は、応援し隊ホームページやInstagram、広報等で使用する場合があります。顔が写っている写真を使用する場合がありますので、あらかじめご了承ください。不都合のある方は、当日担当者にお申し出ください。
- 天候や新型コロナウイルスの影響等により、中止となる可能性があります。中止の場合は団体の代表者様に連絡しますので、「代表者の電話番号（活動当日につながる連絡先）」をお教えください。
- 活動地までの交通手段についてお困りの方は、条件によっては事務局で手配可能な場合があります。お気軽にご相談ください。

とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事務局
株式会社徳島新聞オアシス
【担当】栗田、三郎
【電話】088-656-7300 【FAX】088-623-1117
【メール】info2@tnews.co.jp




協働パートナーへ活動の募集案内例

39

2 とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業の取り組み

（14）応援し隊事業の他事業との共通性

応援し隊事業の応援は、当課の他の事業とも共通している。

- ・活動人員の確保・・・多面的機能支払交付金事業



- ・地域が取り組む農用地保全、地域資源活用のツールとして・・・農村RMOモデル形成支援事業

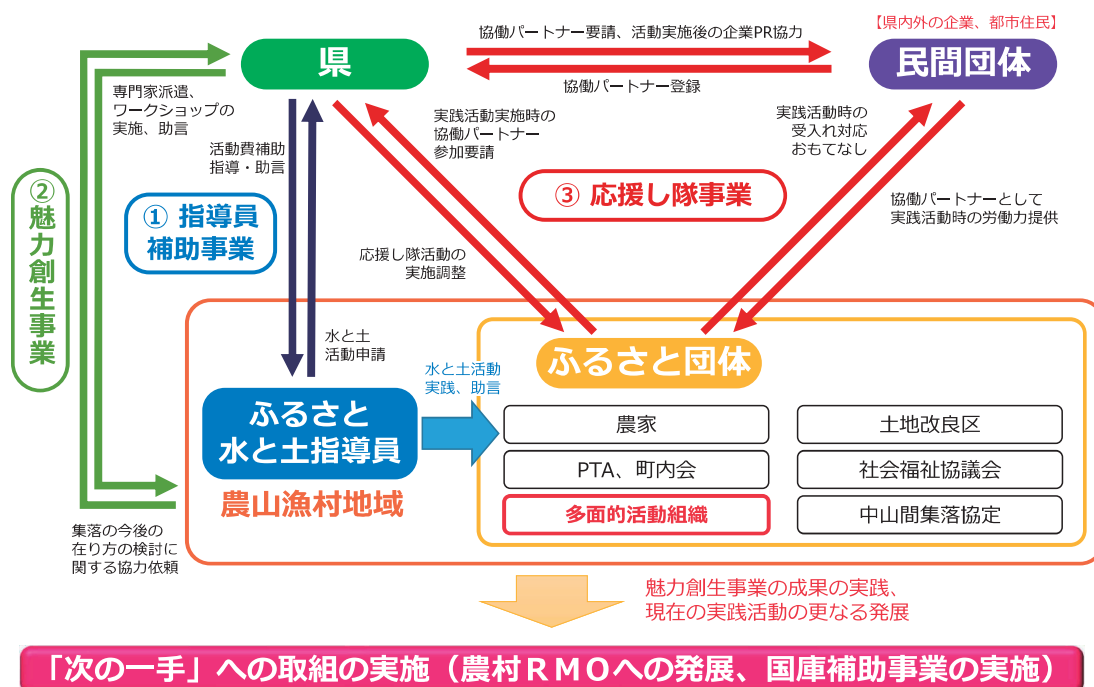


40

2 とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業の取り組み

（15）応援し隊と他事業との関連

- 当課の各事業は農山漁村地域（ふるさと団体）を応援すると言う点で、つながっている。



41

3 とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業の今後

42

(1) 応援し隊事業の効果と課題

これまでの事業効果として、

- ・イベントやお祭りの継続、産地の維持、環境保全等に一定の効果を発揮
- ・ふるさと団体、協働パートナーともに新たな申し込みも来ている状況

一方で、課題として、

- ・「ふるさと団体」は、高齢化・人口減少、コロナ禍による活動休止期間の影響もあり、活動休止、規模縮小する事例が増加
- ・「協働パートナー」の大半が県内の企業・大学であり、応援する地域、応援への参加者が固定化しつつある。
- ・県外の「協働パートナー」の活動参加が低調

43

(2) 応援し隊事業の新たな挑戦

- ・ 県外企業・団体による協働活動への参加促進

徳島県と縁ある県外企業との連携



徳島県人会との連携



- ・ より深い地域との関係性を構築

世界農業遺産との連携によるCSR効果向上



多面的機能支払交付金事業などの地元組織とのマッチング強化



農泊や観光との連携による地域経済との好循環を創出



地域により深く、全国から新たな風を呼び込み、関係人口のさらなる増加へ

44

おわり



三重のふるさと応援カンパニー推進事業

- 地域と企業の縁結び -

三重県 農林水産部 農山漁村づくり課



<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>

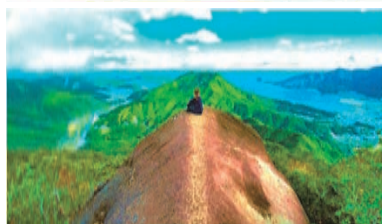
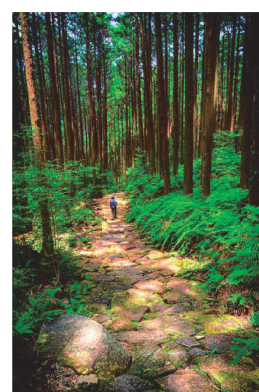
1

三重県の概要 -古くから「美し国」と呼ばれてきた場所-

美し国みえ

- 自然と人が織りなす場所 -

三重は、南北に長く地勢や気候も様々で
海・山・川の豊かな自然に恵まれ
人が暮らすのに理想的な地域として
古くから「美し国」と呼ばれてきた場所です



<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>

2

背景 -農村地域の課題と資源-

農山漁村地域の課題

- ・ 人口減少
- ・ 少子高齢化
- ・ 基幹産業の農林水産業が停滞
- ・ 地域の元気がなくなってきた
- ・ コミュニティ活動が継続できない
- ・ 地域への愛情や誇りが薄くなってきた

農山漁村地域の資源

- ・ 美しく豊かな自然環境
- ・ おいしい空気・水・農林水産物
- ・ 身体を動かすことができる作業現場
- ・ 伝統文化や郷土料理
- ・ 温かい地元住民とのふれあい
- ・ 都会とは異なる非日常空間



<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>

3

背景 -企業の課題と資源-

企業の課題

- ・ 社会貢献やSDGsへの貢献
- ・ 地域とのコミュニケーションが重要に
- ・ 社員の福利厚生が重要に
- ・ 社員の心のケアが重要に
- ・ 社員の士気向上が重要に
- ・ 新しいビジネス分野、新しい商品やサービスを開拓する必要が出てきた

企業の資源

- ・ 働き盛りの多くの社員
- ・ 社員が持つ多様なスキル、ノウハウ
- ・ （個人に比べれば）豊富な資金
- ・ 会社設備や営業ツール、流通基盤
- ・ 会社内のネットワーク
- ・ 日本各地とのネットワーク

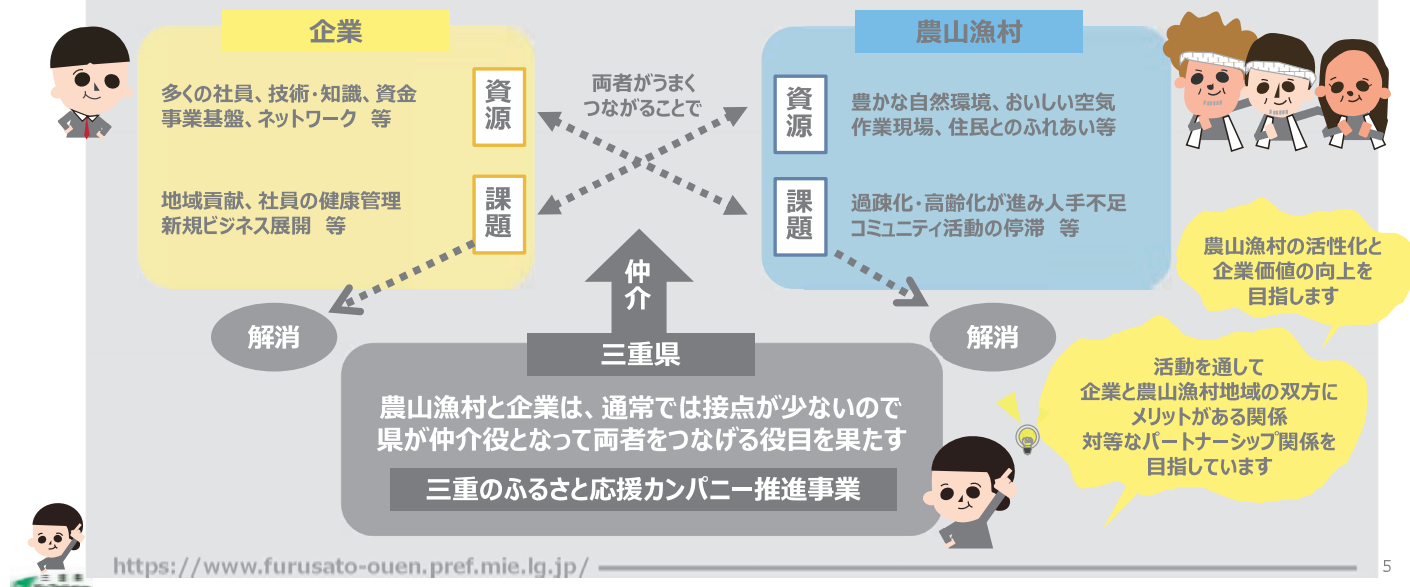


<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>

4

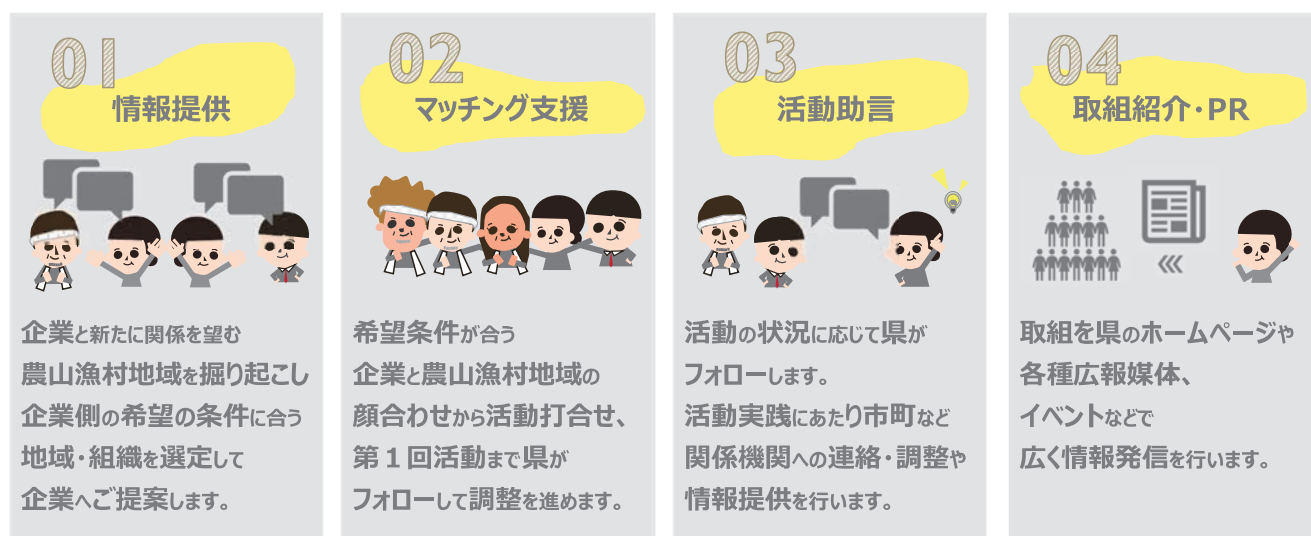
事業の目的 -農山漁村と企業を結ぶ新たなご縁づくり-

地域活性化を進めたい農山漁村地域と、社会貢献活動や新たな商品開発等に取り組みたい企業をマッチングすることで、多様な主体が農山漁村地域を支えるような新しいご縁づくりに取り組んでいます！



5

三重県のフォロー・支援体制 -マッチングを支える仕組み-



<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>

6

農山漁村・企業それぞれのメリット



<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>

7

マッチングの流れ -6つのステップ-

STEP 01 » STEP 02 » STEP 03 » STEP 04 » STEP 05 » STEP 06

申し込み：



まず企業または農山漁村側からマッチング希望の申込を行います。
(HPやお電話などで受け付けています)
県が窓口となり、地域団体からの声掛けだけでなく、県が企業側に働きかけてマッチング希望先を発掘する場合もあります。

ニーズの確認・



県担当者が双方の希望内容を詳しくヒアリングします。
地域側の資源や活動内容、企業側のCSR・事業ニーズなど条件を整理し、マッチングの方向性を検討します。
必要に応じて専門家の助言を得ることもあります。

マッチングの



実施：
県立会いのもと、企業と地域担当者が直接会い、双方のニーズや提供可能な資源について話し合います。
お互いの期待値をすり合わせ、協働活動のアイデアを練ります。

マッチング成立



(協定締結)
条件が合意に達した場合、企業と地域との間で協定書等を締結します。
協働内容や役割分担、継続期間などを明文化し、連携の基盤とします
(※条件が合わない場合は再マッチング検討)。

活動の実施：



協定に基づき、実際の協働プロジェクトがスタートします。
企業社員のボランティア参加、共同イベント開催、商品開発など具体的な活動を展開します。
県も必要に応じフォローし、活動状況を把握します。

活動の見直し・



発展：
活動後に振り返りを行い、成果や課題を双方で共有します。
改善点があれば次回活動に反映し、協働を深化させます。
活動が成熟してくれば、より本格的な事業展開や新たな取組へ発展させていきます。

<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>

8

農山漁村地域での検討STEP 1 | 企業との連携・協働に向けた検討（取組内容）

どのような活動や交流が可能ですか？



下記①～④の視点を踏まえて、企業などと一緒に活動できたら嬉しい活動を検討してみましょう！

① 人手不足で困っていることはありませんか？

地域で、人手不足で困っている作業や高齢化で難しくなってきた作業の手伝いを、企業の地域貢献活動として実施してもらうことが可能です。

② 使わない農地を活用してもよいと思いますか？

社員が参加して、農地を活用した稲や野菜の栽培、収穫などを行うことは、企業にとっては福利厚生活動等として位置づけることができ、有効です。

③ 企業側にもメリットがある内容ですか？

企業側にも、活動を通して何らかのメリットが感じられるような内容の方が企業側の姿勢も前向きになります。

④ 農山漁村地域側が負担するだけの関係になっていませんか？

受け入れる農山漁村側には、多少なりとも負担がかかることになりますので、無理のない範囲での活動にすることも大切です。

☐ 農作業支援 ☐ 荒廃農地解消 ☐ 鳥獣害対策支援 ☐ 食品加工 ☐ 空き家活用 ☐ 草刈り ☐ 景観保全 ☐ 販売支援
☐ 情報通信 ☐ 買い物支援 ☐ 移動支援 ☐ 交流・体験 ☐ 商品企画・開発 ☐ イベント企画 ☐ 健康医療 ☐ デザイン
☐ 撮影 ☐ ICT活用 ☐ 広報 ☐ 業務改善 ☐ 観光・旅行プラン ☐ 調査研究 ☐ 講師 ☐ その他



<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>

9

農山漁村地域での検討STEP 2 | 企業との連携・協働に向けた検討（受入体制）

活動の受入はどの組織が担当しますか？



企業などと一緒に活動できたら嬉しい活動内容の検討ができたら受入体制について整理してみましょう！

① STEP 1 で検討した活動内容に対応できる地元組織はありますか？

企業と連携・協働する活動に対して、十分な対応が可能な地元組織が必要です。

必ずしも自治会のように集落全てが参画している組織である必要はありませんが、活動範囲が集落全てに関係するようであれば、全員が参加している組織が望ましいです。

組織については、活動内容に応じて、別の組織と連携したり、窓口を変更したりする可能性もあります。

② コーディネーター（活動の調整役）となる人材はいますか？

企業側との窓口となって、企業と地元の調整などを行う人材が必要です。

上記①の組織の会長さんなどでも結構ですが、可能であれば、会社を退職された方、公務員だった方、県外で働いた経験がある方など別の視点を持った関係者がベストです。

農山漁村と企業が連携・協働する取組は、決まったルールがありません。

いろいろな角度からアイデアを出したり、新しい取組を考えたりと、柔軟な対応が求められます。

連携できそうな活動内容や
受け入れ態勢の整理ができたら
企業へ話を持ち込んでみましょう！

まずは軽い交流から！
つながりを持つことが大切！



<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>



10

企業での検討STEP 1 | 農山漁村地域との連携・協働に向けた検討（取組内容）

御社のご意向や条件をヒアリングさせていただきます

農山漁村との連携に向けた企業側チェック事項

- 1 具体的な活動のニーズ
- 2 活動場所
- 3 活動内容
- 4 活動日
- 5 年間活動回数
- 6 活動期間
- 7 参加者の形態
- 8 道具代、材料代等の経費負担
- 9 窓口、コーディネーター人材
- 10 企業理念・CSR方針で特に注力しているテーマ
- 11 農山漁村で取り組んでみたいこと
- 12 あなたの企業で取り組みたいSDGs達成目標

農山漁村地域との連携に向けた企業側チェック事項

- 1 具体的な活動のニーズ
 - 企業イメージの向上（地元からの理解、親近感など）
 - 社員の健康増進、福利厚生の向上
 - 社員同士のコミュニケーション活性化、士気向上
 - 社員の研修育成、能力向上
 - 新しいビジネス開発
 - その他（ ）
- 2 活動場所
 - 会社、工場等の周辺（数km圏域まで）
 - 会社、工場のある市町村域内
 - 会社、工場からそれ程遠くない地域（車で30分圏内）
 - 会社、工場からそれ程遠くない地域（車で60分圏内）
 - どこでも良い（ただし参加者の交通手段を考慮）
- 3 活動内容
 - 作業のお手伝い程度で十分
 - 同じ作業をしっかりとやりたい
 - 作業以外に、地域の行事などにも参加したい
 - 作業だけでなく、住民の方と交流したい
 - 住民の方と、じっくりと検討を重ねて、新しい取組を広げたい
- 4 活動日
 - 週末中心
 - 基本的にいつでもOK
 - 繁忙期、夏休みなどがあるので活動時期は限定的に
- 5 年間活動回数
 - 年1回程度
 - 年2、3回程度
 - 年4回程度
 - 年5回以上

12 あなたの企業で取り組みたいSDGs達成目標

（複数選択可）

- 1 持続可能な開発目標（SDGs）の理解と認識を深める
- 2 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組を推進する
- 3 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組を推進する
- 4 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組を推進する
- 5 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組を推進する
- 6 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組を推進する
- 7 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組を推進する
- 8 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組を推進する
- 9 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組を推進する
- 10 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組を推進する
- 11 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組を推進する
- 12 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組を推進する
- 13 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組を推進する
- 14 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組を推進する
- 15 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組を推進する
- 16 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組を推進する
- 17 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組を推進する

<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>

11

両者での検討STEP 1 | 農山漁村地域との連携・協働に向けた検討（打合せ・現地見学）

企業・地域・県の三者で顔合わせし、ざっくばらんにお互いの希望を出し合います

農山漁村と企業の新しい関係づくりマトリックス（取組参考事例）					
企業側の視点	A. 社会貢献・地域貢献	B. 福利厚生・心の健康	C. 社員研修・社内コミュニケーションの活性化	D. 新規事業の展開	E. 新規資源の活用
農山漁村側の視点					
1. 人材支援・ボランティア支援	A 1 社員ボランティアによる農作業、集落作業支援	B 1 福利厚生事業としての農作業体験	C 1 社員研修として農作業体験	D 1 地元交流を通じたマーケティング調査	E 1 地元交流を通じた高付加価値素材・資源の調査
2. 資材支援	A 2 社会貢献、地域貢献の一環として資材提供		C 2 社員研修と連動した資材支援	D 2 資材提供を通じた試作品の実証実験、データ収集	
3. 財政支援・寄附・協賛	A 3 社会貢献、地域貢献の一環として寄附			D 3 コーズ・マーケティング手法による商品開発（寄附）	E 3 コーズ・マーケティング手法による商品開発（寄附）
4. 企業の本業を通じた農山漁村支援	A 4 企業や社員のノウハウ、能力の活用（プロボノ）		C 4 農山漁村と共同した商品開発研修	D 4 地域課題解決にも効果がある新サービス、新商品の展開	E 4 観光資源や新規資源を活用した新規事業の取組
5. 企業による地域資源の活用を通じた支援	A 5 企業や社員のノウハウ、能力の活用（プロボノ）	B 5 社員食堂で食料活用	C 5 社員研修として農山漁村交流事業の実施	D 5 観光資源や地域資源を活用した農商工連携事業の取組	E 5 観光資源や新規資源を活用した農商工連携事業の取組
6. その他	A 6 地域行事への参加出張授業、出張教室	B 6 福利厚生事業として農山漁村交流事業の実施	C 6 地域行事への参加出張授業、出張教室		

POINT
活動を通して企業と地域が交流すること

POINT
最初は簡単な活動からはじめる

POINT
双方の理解が進んだら次の新しい展開方向を協議

<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>

12

三重県での事例

CSGコンサルト株式会社・下建設株式会社・磯部工業株式会社（伊勢市）×水土里プロジェクトおばた（伊勢市）

CSGコンサルト株式会社・下建設株式会社・磯部工業株式会社×水土里プロジェクトおばた（伊勢市）

CSGコンサルト株式会社・下建設株式会社・磯部工業株式会社と水土里プロジェクトおばたは、地域の農業振興、環境整備活動、体験交流活動、地域活性化を目指し、田んぼアートの取組を行っています。

企業にとって

- 企業全体のイメージアップ
- 地元からの信頼性向上
- 企業や社員の技術・能力を活用した社会貢献・地域貢献
- 自治体発注業務における入札評価での加点



農山漁村地域にとって

- 地域単独では難しい活動（田んぼアート）の実現
- 田んぼアートの実現による地域農業の振興・体験交流活動の促進・関係人口の創出



<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>

15

三重県での事例

京セラドキュメントソリューションズ株式会社 玉城工場・山田清掃有限会社×清し有田佐田沖環境保全会（玉城町）

京セラドキュメントソリューションズ株式会社 玉城工場・山田清掃有限会社

×清し有田佐田沖環境保全会（玉城町）

里山ガーデニングコンテストの開催やビオトープの整備、フットパスの整備、エリア内の草刈りや観察用木道の整備、地元小学校の生き物観察会、生物調査などの協働活動などに取り組んでいます。

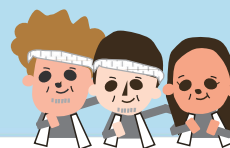
企業にとって

- 地元からの信頼性向上
- 企業のCSR活動の実績となり「地域貢献」「環境保全」に力を入れているという企業イメージの向上
- 社員が農村の自然環境に親しむことができる



農山漁村地域にとって

- 外部の人に地域活動に参加してもらうことで、受け入れ側の活動のモチベーションの維持
- 新しい視点での取組みのアイデアが期待



<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>

16

三重県での事例 | 海洋ゴム株式会社（紀北町）×特定非営利活動法人ふるさと企画舎（紀北町）

海洋ゴム株式会社（紀北町）×特定非営利活動法人ふるさと企画舎（紀北町）

海洋ゴム株式会社と特定非営利活動法人ふるさと企画舎は、紀北町銚子川流域における農山漁村活性化に向けた協働活動として地元の特産品である「くき漬け」の原料であるサトイモ（ヤツガシラ）の種芋収穫作業への協力を行っています。

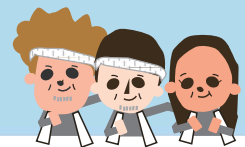
企業にとって

- 企業全体のイメージアップ
- 社会貢献・地域貢献
- 自然に触れあえる場をつくることで社員の心の健康・満足度向上
- 社内コミュニケーション活性化



農山漁村地域にとって

- 農作業の労働力確保
- 地元特産品である「くき漬け」のPR



<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>

17

三重県での事例 | 熊野精工株式会社（熊野市）×御浜町尾呂志地区の組織（御浜町）

熊野精工株式会社（熊野市）×御浜町尾呂志地区の組織（御浜町）

熊野市有馬町にある熊野精工株式会社では、御浜町尾呂志地区の住民組織が取り組む酒米プロジェクトに協力し、地域資源の発掘、商品化（日本酒醸造）の活動を協働して行っています。

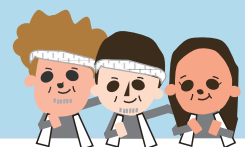
企業にとって

- 地域の中堅企業として地域コミュニケーションの活性化
- 企業イメージの向上
- 達成感による社員の士気向上 心身のリフレッシュ
- 新たな商品開発への可能性



農山漁村地域にとって

- 作業における人手不足の解消
- 活動のPR効果の拡大 住民の活動意欲の向上
- 企業リソースを活用した取組展開の可能性



<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>

18

三重県での事例 | 一般社団法人日本自動車連盟三重支部（津市）×三重県

一般社団法人日本自動車連盟三重支部（津市）×三重県

一般社団法人日本自動車連盟三重支部と三重県では、農山漁村の魅力発信や地域資源を活用した新たな取組を推進することで、都市と農山漁村の交流を促進するとともに農山漁村の活性化を図ります。

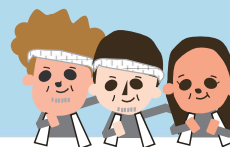
企業にとって

- 企業全体のイメージアップ
- 企業の顧客へのサービス向上
- 地域課題解決にも効果がある新サービスの展開



農山漁村地域にとって

- 県内にある魅力的な棚田地域の情報発信
- 棚田保全への理解の醸成
- 棚田地域へのマイカーによるドライブでの誘客促進



<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>

19

三重県での事例 | 株式会社ヤクルト東海（愛知県）・三重ヤクルト販売株式会社（津市）×三重県

株式会社ヤクルト東海（愛知県）・三重ヤクルト販売株式会社（津市）×三重県

株式会社ヤクルト東海・三重ヤクルト販売株式会社と三重県では、農山漁村資源の利活用の推進に向けた協働活動として地域農産品を活用した健康レシピのSNS情報発信や各種イベントにおける地域住民の健康増進に向けた活動を行っています。

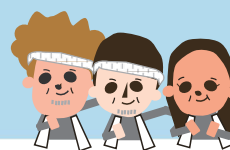
企業にとって

- 企業全体のイメージアップ
- 社会貢献・地域貢献
- 自社製品のPR



農山漁村地域にとって

- 地域農産品の魅力PR
- 農山漁村地域の方の元気づくり
- イベント参加者の満足度向上



<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>

20

協定の状況 -令和6年度末時点-

協定締結数 (H24からの累計)

25件



協定活動継続中

16件

協定活動休止中

4件

協定終了

5件

協定締結後に活動が休止もしくは終了に至った事例も見受けられ、その背景にはいくつかの共通した要因が確認されています。

- 新型コロナウイルス感染症の流行による影響
- 受入地域側の高齢化や担い手不足
- 企業側の人事異動や担当者の退職・交代
- 企業側の経営環境の変化やCSR方針の見直し



<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>

21

課題 -マッチング推進上のチャレンジ-

マッチングの難しさ

- 一番の課題は、ニーズの噛み合わせです。
- 企業と地域それぞれに思いはあっても、「何を一緒にできるのか」を見出すまでに時間がかかる場合があります。
- 特に地域側は企業にどうアプローチして良いか分からないという声も多く、せっかく良い資源があっても提案ベースに乗せられない状況が見られます。
- 県が仲介しても、企業側の事情（人員や予算の都合等）でマッチング成立まで長期化するケースもあります。

地域側の受入体制

- 企業から人が来ても、受け入れる地域側に体制やノウハウが不足していると十分に活かせません。
- 例えば、大人数のボランティアを受け入れる際の作業段取りや安全管理、企業との調整役となるコーディネーター人材の育成といった課題があります。
- これらに対しては、県や中間支援組織によるサポート強化が必要と認識しています。

持続性の確保

- 協定を結んだ後、継続的な関係に発展させることも課題です。
- 初年度は物珍しさや熱意で盛り上がっても、担当者の異動や事業優先度の変化により活動が下火になる恐れもあります。
- これに対し、定期的なフォローアップや双方のメリットを再確認する場づくりが重要です。
- 活動を一過性のボランティアに終わらせず、企業の本業や中長期計画に絡めて位置付ける工夫が求められます。

評価指標の設定

- 企業と地域の連携による効果をどう評価・可視化することも課題です。
- 多面的機能の維持や地域活性化への寄与は定量化が難しい側面がありますが、双方に納得感を持って継続してもらうために、例えば「耕作放棄地の減少面積」「イベント参加者数」「開発商品売上」等の指標を共有し、進捗を測る工夫も検討すべきと認識しています。



<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>

22

今後の展望 -さらなる発展に向けて（担当者としての野望）-

企業連携の深化・拡大

- さらに積極的に企業側へ働きかけ、**参加企業の裾野拡大**を図ります。
- 特に**地元企業**のみならず**都市部の企業**にも三重の農山漁村の魅力をPRし、新たなマッチングを創出していきます。
- その際、単なるCSRに留まらず**企業の本業に資する連携**（例えば製造業が農産廃棄物を原料に商品開発、IT企業が農業ICTを実証等）を模索し、**企業にとっても事業価値のある協働へ深化**させていきたいです。

DX・テクノロジーの活用

- 令和時代の取り組みとして、**デジタル技術の活用**にも注力していきたいです。
- マッチング希望の地域資源データベース化、オンライン商談やVR体験による地域紹介、AIマッチングなど、デジタルを活用し、**より相性の良い「緑結び」**ができないか検討していきたいです。

他分野との連携

- 農林水産分野に留まらず、**教育**（企業の社員研修×農村留学）、**観光**（企業の報奨旅行×農泊体験）、**環境**（カーボンオフセット植林）など**横断的な連携**も視野に入れていきたいです。
- 多様な分野の企業を巻き込み、「**農山漁村＝様々な社会課題解決のフィールド**」という認識を広げ、オープンイノベーションの場としての**農山漁村の価値**を高めたいと考えています。

継続支援と情報発信

- 県としては引き続き**協定締結後のフォローアップやネットワークづくり**に努めます。
- 参加企業・地域の声をフィードバックし事業内容を進化させるとともに、マスメディアやSNSを通じて**成功事例を積極的に発信**し、地域と企業をつなぐ良い循環を生み出したいと考えています。



<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>

23

導入の留意点・ヒント -マッチング成功のために-

01

双方の理解を深める



事前のヒアリングや現地視察を通じて、企業には地域を、地域側も企業を理解することに努めて、**共通の目的意識**を醸成します。

02

マッチメーカーの役割



行政や中間支援組織は単に紹介するだけでなく、協定締結の助言、活動計画の調整、トラブル時の仲裁など**伴走支援**を行うことが成功率を高めます。

03

小さく始めて育てる



いきなり大規模な連携を目指すより、**できるところから着手**するのがポイントです。
成功体験を共有し信頼関係を築くことで、翌年以降の継続・発展へ繋げやすくなります。

04

企業の声を反映



企業にも**本業上の目的や社内での説得材料**が必要です。「地域の課題解決」が最終目的ではありますが、進め方としては**企業の要望をどんどん聞くこと**も大切です。



<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>

24



本県が取組が、全国の農山漁村での
協働モデル構築の一助となれば幸いです。
ぜひ皆様の地域でも地元の魅力と企業の力を結び
新たな相乗効果を生み出してください。



<https://www.furusato-ouen.pref.mie.lg.jp/>

三重県農林水産部農山漁村づくり課

059-(224)-2518 nozukuri@pref.mie.lg.jp

25

令和 7 年度
農業・農村の多面的機能の持続的発揮に向けた全国シンポジウム
活動組織の事例紹介

「待矢場太田広域協定運営委員会」

～活動継続は力なり～

待矢場太田広域協定運営委員会事務局
待矢場両堰土地改良区 飯塚 則幸

自己紹介

待矢場太田広域協定運営委員会

平成 1 6 年 待矢場両堰土地改良区入職
管理課→総務課→管理課

平成 1 8 年 資源保全実験事業

平成 1 9 年 農地・水・環境保全向上対策

平成 2 3 年 農地・水保全管理支払

平成 2 6 年 多面的機能支払交付金

令和 5 年 広域協定締結

群馬県

待矢場太田広域協定運営委員会

群馬県は、日本列島のほぼ中央にあり、西北部には2000m級の山々が連なり、南東部には関東平野が開ける人口約190万人の内陸県です



特産品



こんにゃく芋



夏秋キャベツ



ほうれん草

世界遺産 富岡製糸場

日本で初の本格的な機械製糸の工場。開国直後の日本の近代化に大きく貢献しました



群馬県のマスコット「ぐんまちゃん」

多面的機能支払交付金と土地改良区

待矢場太田広域協定運営委員会



【待矢場両堰土地改良区】

群馬県東部の渡良瀬川と利根川に挟まれたところに位置しています。地形は関東平野への移行部にあたるため、扇状地を形成している地域です。

水源は渡良瀬川に求めており、受益は3市3町に亘る東西25km・南北15kmの範囲の水田へ配水しています。

受益面積 約3,700ha (田のみ)

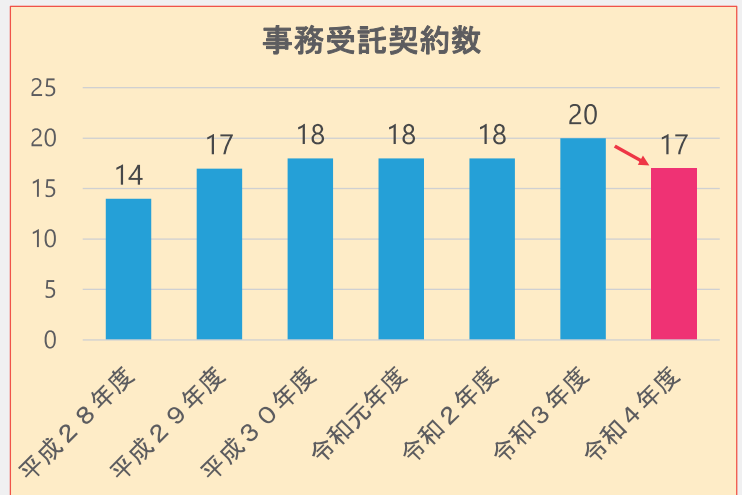
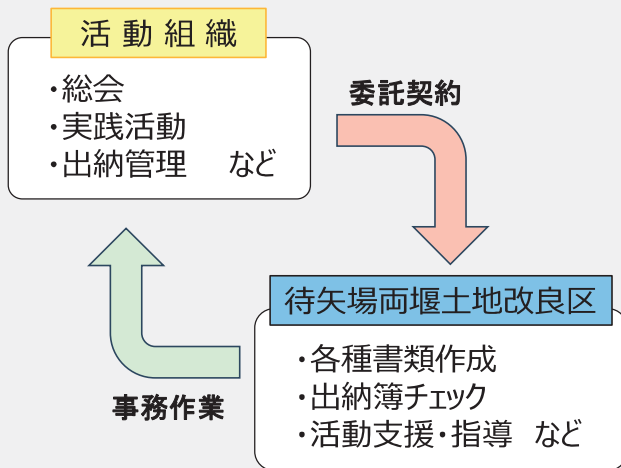
組合員数 約7,300人



【活動組織への支援（事務受託）】

3市2町 1広域協定、13組織 (1,192ha)

平成28年 定款を変更し、土地改良区が実施する「事業」に位置付け
これにより、正式に活動組織の事務を受託



広域協定運営委員会の設立背景

【活動継続への課題】

- 役員の担い手不足
- 煩雑な総会事務や出納事務などの負担
- 活動面積が小さく長寿命化対策が難しい



広域化を利用して
課題を解決できないか??

広域化によるメリット

ポイント

- ・申請、報告手続きや新規加入の簡素化
- ・重要度の高い施設へ予算の重点配分
- ・小規模組織への交付金は配分で活動の継続
- ・外部団体、組織間で連携して人手不足の解消

事務支援を実施している土地改良区が各組織へはたらきかけ広域化を検討

活動期間も活動の性格も違う活動組織の「橋渡し」を行い、賛同のあった活動組織を
「集落」に位置付け広域化を図った

広域協定運営委員会の概要

待矢場太田広域協定運営委員会

令和5年度、6つの活動組織を中心に広域協定委員会を発足

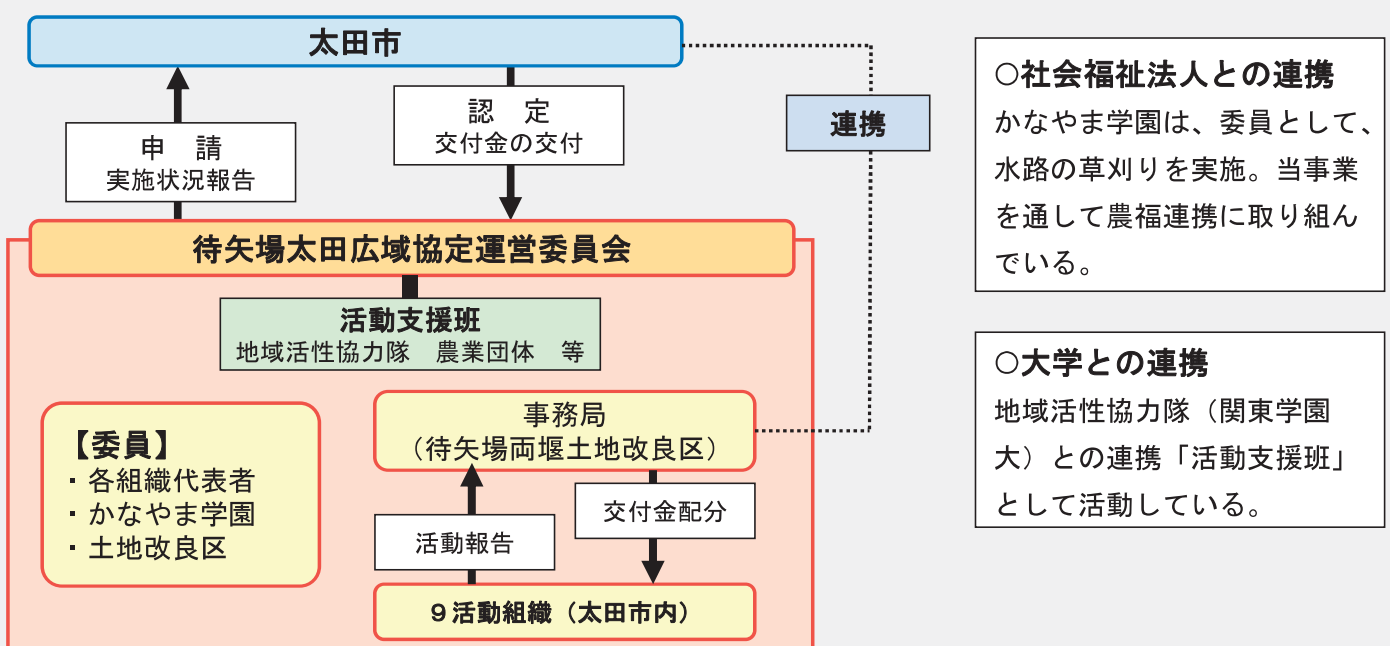
組 織 名	待矢場太田広域協定運営委員会
所 在 地	群馬県太田市
取組面積	57,697a(田)
構 成 員	運営委員会委員8団体 (太田市内6活動組織、社会福祉施設、土地改良区)

令和7年度までに3活動組織が加わり、委員11団体、取組面積66,932aまで拡大している。

各活動組織への参加団体 (活動支援班2班)	農 業 者：農業者の団体25 農業者以外：自治会10、子供会1、学校1 その他の農業者以外の団体6
--------------------------	---

広域協定運営委員会の組織体制と連携

待矢場太田広域協定運営委員会



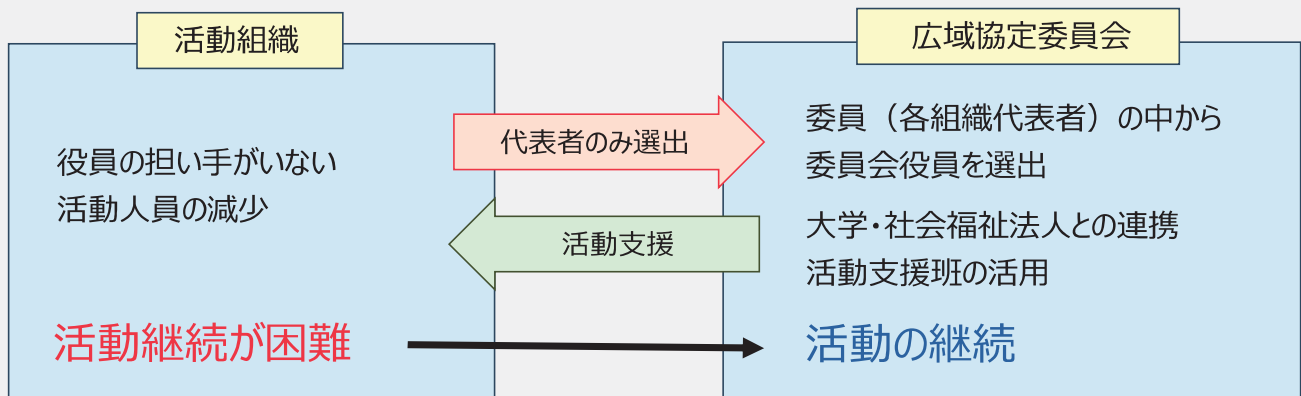
広域化の効果は？

待矢場太田広域協定運営委員会

【活動継続への課題】

○役員の担い手不足

- 煩雑な総会事務や出納事務などの負担
- 活動面積が小さく長寿命化対策が難しい

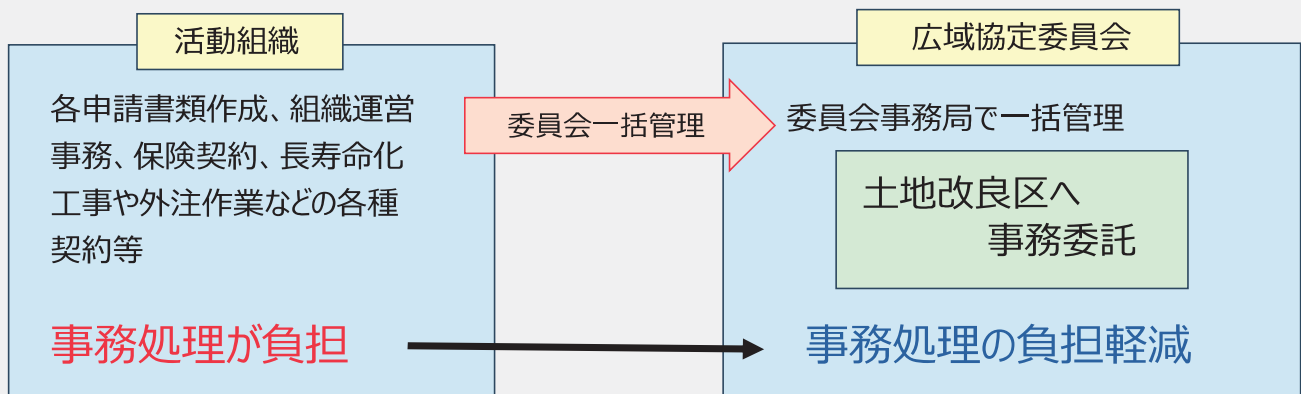


広域化の効果は？

待矢場太田広域協定運営委員会

【活動継続への課題】

- 役員の担い手不足
- 煩雑な総会事務や出納事務などの負担
- 活動面積が小さく長寿命化対策が難しい

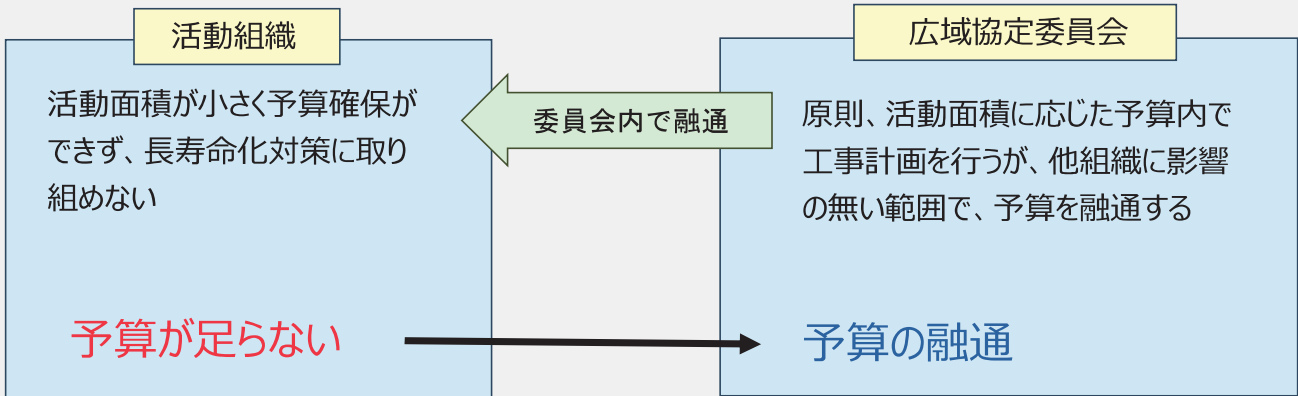


広域化の効果は？

待矢場太田広域協定運営委員会

【活動継続への課題】

- 役員の担い手不足
- 煩雑な総会事務や出納事務などの負担
- 活動面積が小さく長寿命化対策が難しい



広域協定の運営

待矢場太田広域協定運営委員会

収入 (単位：千円)

項目	予算額
交付金	52,000
農地維持・共同活動	30,000
農地維持	20,000
資源保全（共同）	10,000
長寿命化	22,000
収入合計	52,000

- 主な共同活動
(環境用水の管理)
農業用水の地域用水としての利用・管理
施設等の定期的な巡回点検・清掃
(農業体験)
啓発・普及活動
(増進活動)
やすらぎ・福祉及び教育機能の活用
活動支援班による活動の実施

支出 (単位：千円)

項目	予算額	附記
農地維持・資源向上	30,000	
組織活動	20,000	(農地維持)
各活動組織		
集落 A	9,000	日当
集落 B	4,300	購入・リース費
集落 C	1,000	外注費
集落 D	1,000	その他支出
集落 E	600	
集落 F	1,000	
集落 G	1,200	
集落 H	400	
集落 I	1,500	
委員会事務	10,000	(農地維持・資源向上(共同))
共同活動費	6,000	各集落が実施する共同活動 ・機能診断、施設修繕、景観形成活動等 ・活動支援班に係る経費 委員会が直接実施する共同活動 ・大学連携に係る経費 ・社会福祉法人が実施する事業
事務費	4,000	傷害保険、役員報酬、事務委託費等
長寿命化	22,000	工事費、事務委託費等
支出合計	52,000	

【交付金及び活動の状況】

農地維持	交付金	面積に応じ各活動組織へ配分
	活動	各活動組織で実施
共同活動	交付金	運営委員会で一括管理（ただし活動を実施する組織には配分）
	活動	活動組織及び運営員会で実施
長寿命化	交付金	運営委員会で一括管理
	活動	原則、各活動組織の面積に応じた額で運営委員会が工事を計画

社会福祉法人との連携

運営委員として参加

社会福祉法人 かなやま学園

- ・水路、農道の草刈り（農地維持活動）
- ・施設の定期的な巡回点検・清掃（共同活動）
- ・やすらぎ・福祉及び教育機能の活用（増進活動）



【学園の基本理念達成への寄与】

「地域の中で生まれ育った障害者は、地域
の中で自立的で幸せな生涯を送る」

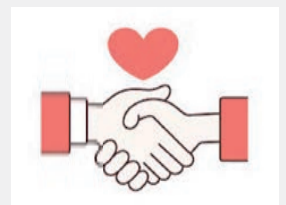
活動の実施



【施設維持管理の強化】

水路の草刈り実施による支援

農
福
連
携
へ
の
模
索



広域化を機に事務局と連携し活動へ参加

地域活性協力隊

(関東学園大学)

想定した活動支援

水路の泥上げや草刈り支援
点検・機能診断の支援
啓蒙、交流活動での企画運営
広報活動（ホームページ、SNS等）



関東学園大学 地域活性協力隊
リゾット専用米

「和みリゾット」



・リゾット米プロジェクトの活動

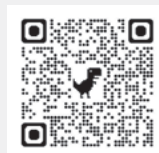
米作りの可能性を調査するため関東学園大学地域活性協力隊が、地元農家の協力で、国産のリゾット専用米「和みリゾット」を作ってみました。



「和みリゾット」とは…

国の研究機関「農研機構」が日本米とイタリア原産のカルナローリ米をかけ合わせ品種開発した大粒でリゾットに適したお米です。

・サイトにてリゾット米販売中です!!



■調査に関するお問い合わせ

関東学園大学 地域活性協力隊 顧問
関東学園大学 経済学部 准教授 中谷淳一
E-mail : jnakatan@kanto-gakuen.ac.jp

研修会の実施

新入生を対象に、「水の勉強会」を実施して、用水管理と多面的機能支払交付金について学びます。



田んぼへの水の供給システムや維持管理に理解を深め、活動参加への意義を学びます。

大学との連携

待矢場太田広域協定運営委員会

泥上げ、草刈りの支援



大学との連携

待矢場太田広域協定運営委員会

点検・機能診断等

農家と連携し実施、必要があれば診断記録作成も・・・
点検・機能診断・・・農家からの課題をヒアリングし、現地確認



非かんがい期間中の環境用水・・・定期的な巡回点検・清掃
地域用水としての利用・管理

活動支援班の活動

待矢場太田広域協定運営委員会

活動支援班の取組

機械を所有する構成員を募集。
活動支援班の役割について、理解を得て新たに活動を開始した。



活動支援班の活動

待矢場太田広域協定運営委員会

米作り体験

昨年からの米不足問題を踏まえ、農家以外の住民や子供たちへの啓蒙活動の一環として田植えの体験会を農家の協力を得て実施。



催事開催のノウハウを持つ活動支援班が計画を立て実施。初めての開催でも円滑に進めることができた。この経験を他組織へも今後伝えていく予定。

広報活動

待矢場太田広域協定運営委員会

地域の広報

活動組織発行の広報誌



広報活動

待矢場太田広域協定運営委員会

SNSを活用した広報活動



Facebookの活用



Instagramの活用

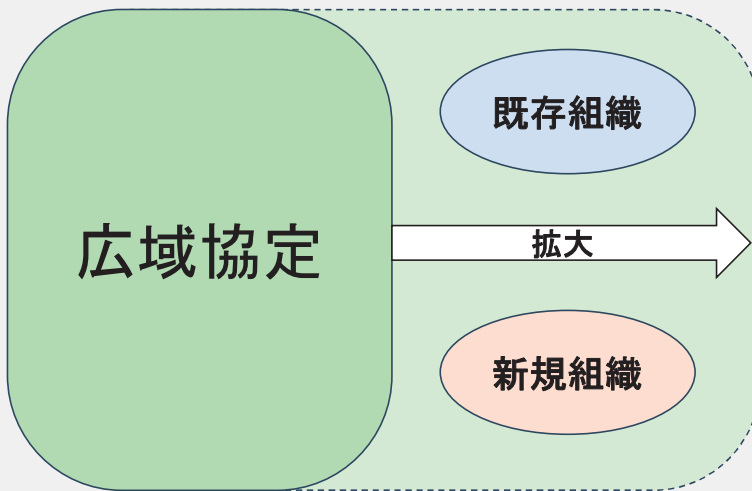


広域協定の拡大

待矢場太田広域協定運営委員会

広域協定に参加していない既存活動組織や新規に取り組み開始する集落を取り込んでいく

広域協定がカバー率向上



活動継続の受け皿

組織の負担軽減により実践活動に専念

広域協定と活動組織の役割が明確なため、新規の取組が容易

今後の展望

待矢場太田広域協定運営委員会

新たな集落の取り込み → 地域保全への寄与
耕作放棄地対策 → 米増産への寄与
田んぼダムの実施 → 災害対策への寄与
土地改良区と組合員（構成員）の関係強化

構成員ひとりひとりが活動参加に
意義を見いだしやりがいを感じる



待矢場太田広域協定運営委員会

ご清聴ありがとうございました

